

上田市文化財調査報告書第84集

八幡裏遺跡群VI

海禅寺裏遺跡・道祖神遺跡

都市計画道路生塚新田線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001年3月

上 田 市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第84集

八幡裏遺跡群VI

海禅寺裏遺跡・道祖神遺跡

都市計画道路生塚新田線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001年3月

上 田 市

上田市教育委員会

序

国立長野病院は、国立東信病院と国立長野病院（上山田町）が統合して平成9年7月1日に開院しました。新病院は、最先端の高度救急医療にも対応した県内最大規模の病院で、地域の中核医療施設として極めて重要な存在となっています。

新病院が開院し、市内外からの救急車両や一般来院者が増加する中で、周辺の道路整備が旧東信病院時代からの課題となっておりました。

本書は、国立長野病院と市街地方面を結ぶ都市計画道路生塚新田線の道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書です。この道路は、上田駅や市街地方面から新病院への正面道路として計画されたもので、歩道の幅を広く確保し、植栽や街路灯を多く配置するなど、病院を訪れる人や地域の人たちに安らぎを与え、憩いの場となるように配慮されています。

国立長野病院とその周辺には、埋蔵文化財八幡裏遺跡群が存在しています。病院の建設に先立つ発掘調査では、縄文時代から平安時代にいたる住居址や墓壙などが多数確認され、上田市の原始古代を研究する上で欠かすことのできない重要な遺跡であることが明らかになりました。今回の海禅寺裏遺跡と道祖神遺跡の発掘調査でも、縄文時代から平安時代にわたる集落跡が確認され、弥生時代と古墳時代の住居址からは、上田地方を代表する標識資料となりうる良好な土器が多数出土するなど大きな成果を収めることができました。

本報告書の刊行にあたり、多大な御理解と御協力を賜りました地元自治会と関係諸機関の皆様衷心より御礼を申し上げ、序といたします。

平成13年3月

上田市教育委員会教育長 我妻忠夫

例 言

- 1 本書は、長野県上田市大字上田（新田）字海禪寺裏と同字道祖神に所在する八幡裏遺跡群海禪寺裏遺跡と道祖神遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は都市計画道路生塚新田線の道路改良工事に先立ち、上田市単独事業として行った。また、調査及び調査に係る事務は上田市教育委員会事務局文化課（機構改革により平成 12 年度から生涯学習課）が実施した。
- 3 現地調査は、平成 11(1999)年 5 月 6 日から平成 12(2000)年 6 月 2 日にかけて実施し、整理・報告書作成作業は平成 12 年度に行った。
- 4 遺構の実測は、塩崎幸夫、養場奈那江、石合好江、田村まり子が行ったほか、空中写真測量・図化を株式会社協同測量社（長野市）に委託して行った。
- 5 整理・報告書作成作業は、塩崎の指示により養場奈那江、井沢光子、石合好江、市村みつ子、上原祐子、大井敬子、田村まり子、田村雄二、丸田由紀子、山本万里が行った。
- 6 本書に掲載した写真は、遺構、遺物を塩崎が撮影し、航空写真は株式会社協同測量社が撮影したものを使用した。
- 7 石器の石質は、上田市誌編さん室甲田三男先生に御教示いただいた。
- 8 本書の執筆は、塩崎が行った。
- 9 本調査に関わる資料はすべて上田市教育委員会の責任下に保管されている。その際に用いる遺跡の略号は、海禪寺裏遺跡が「KZU」、道祖神遺跡が「DSJ」である。
- 10 本書が上梓されるまでには、多くの方々や諸機関の御指導、御協力を賜った。以下、御芳名を記して深く感謝の意を表したい。

新田自治会の皆様、宗教法人海禪寺、信濃建設協同組合、株式会社宮下組、長野県教育委員会文化財・生涯学習課、上田市都市整備部都市計画課（願不同・敬称略）

凡 例

遺 構

- 1 遺構の略号は、次のとおりである。

竪穴住居址（SB-）、溝状遺構（SD-）、集石遺構（SX-）、土坑（SK-）、ピット（P-）、竪穴住居址内の周溝等（SD）、土坑（SK）、ピット（P）

- 2 遺構実測図については、次のとおりである。

（1）平面位置の表示は、平面直角座標第Ⅶ系を座標変換した調査グリッドを表示した。

- (2) 方位は、原則として竈または、第Ⅷ座標系の方眼北を頁の上とし、方位で示した。
 - (3) 縮尺は、竪穴住居址・溝状遺構・土坑・ピット(1/60)、竈(1/30)である。
 - (4) 水系レベルに記した数値は、標高(単位:m)を示す。
 - (5) 平面図における網点は、焼土の範囲を表す。
- 3 遺構一覧表については、次のとおりである。
- (1) 規模の単位は、mである。
 - (2) 数値欄の()は推定値、〈 〉は調査範囲である。
 - (3) 竪穴住居址の主軸方向は、竈を有する壁に直交する軸線を主軸とし、竈が検出されなかった住居址は長軸もしくは竈の位置する壁を推定して、第Ⅷ座標系の方眼北との角度で示した。
 - (4) 竪穴住居址の壁高・溝状遺構・土坑・ピットの深さは、検出面からの深さを示した。また、住居址内の周溝・土坑・ピットの深さは、住居址床面からの深さを示した。
- 4 土層の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1988及び1990)に準拠した。
- 5 遺構写真の縮尺は、任意である。

遺 物

- 1 遺物の略号は、次のとおりである。
- 土器(P-O)、石器(S-)
- 2 遺物実測図については、次のとおりである。
- (1) 縮尺は、原則として1/3である。各図にはスケールを付した。
 - (2) 土器の断面は、縄文土器・弥生土器・土師器は白抜き、須恵器は黒塗り、灰釉陶器は網点とした。
 - (3) 土器器面の網点は、赤色塗彩・黒色研磨処理を施した範囲を表す。
 - (4) 砥石の網点は、研磨痕の範囲を表す。
- 3 遺物観察表については、次のとおりである。
- (1) 法量欄の単位は、cm・gである。
 - (2) 法量欄のうち、口径欄の()は推定値、〈 〉は大幅な推定値を示す。器高欄の()は残存値を示す。また、底径欄の-は丸底を示す。
 - (3) 土器の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1988及び1990)に準拠した。
- 4 遺物写真の縮尺は、任意である。
- 5 写真図版中の遺物番号は簡略化した(例:第18号住居址5→SB-18 5・遺構外→Z)。また、D SJ(道祖神遺跡)の表記のないものはすべて海禅寺裏遺跡出土遺物である。

目 次

序

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の体制	1
第3節 調査日誌(抄)	2
第4節 調査の方法	3
第2章 遺跡の環境	8
第1節 自然的環境	8
第2節 歴史的環境	10
第3節 基本層序	16
第3章 調査の結果	17
第1節 海禅寺裏遺跡の調査	17
第2節 道祖神遺跡の調査	107

写真図版

報告書抄録

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過

八幡裏遺跡群は、上田市街地北方の黄金沢が形成した広大な扇状地上に所在している。この付近は、明治・大正期には一面の桑園が広がり上田の蠶糸業を支えていたが、蠶糸業の衰退や人口の増加に伴い宅地化が進み、市街地に隣接した閑静な住宅街に姿を変えている。八幡裏遺跡群が確認されたのは比較的早く、大正14年に行われた上田温泉電軌北東線建設の際に弥生時代中期の壺形土器などが出土したことが初見であった。また、昭和27年に国立東信病院の病棟の改築工事に伴い、小規模ながら発掘調査が実施され、縄文時代の良好な遺跡が存在することが確認されており、周知の埋蔵文化財包蔵地として認知されている。

平成5年度以降、長野県住宅供給公社による県職員住宅の建設と、厚生省による国立長野病院の新築を契機として、八幡裏遺跡群は5次にわたる発掘調査が実施され、縄文～平安時代にわたる集落遺跡群であることが明らかとなった。

平成9年、国立長野病院の開院に伴い、通院者が増加することにより周辺の道路環境の整備が必要となり、市街地や上田駅方面からの交通の便を図るため、従来幅約3.5mの1車線で病院側からの一方通行であった市道生塚新田線を拡幅して市道新田大星線から相互通行できるようにすることになり、上田市都市整備部都市計画課では用地買収を進めてきた。

計画の具体化を受けて、上田市教育委員会文化課では、工事計画地が「周知の埋蔵文化財」八幡裏遺跡群の範囲に含まれていたことから、試掘調査を実施して、遺跡の存否を確認することになった。試掘調査は、平成10年3月20日に実施され、竪穴住居址、土坑等の遺構と遺物が確認された（上田市教育委員会『平成10年度 市内遺跡』1999.3）。試掘調査の結果を受けて、都市計画課と協議を行った結果、歩道部分についてはインターロッキング舗装として遺跡の保存を図り、幅員9mの車道部分について記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、上田市の単独事業として上田市教育委員会事務局文化課が直営で実施した。現地での調査は平成11年5月6日に着手し、住宅移転の進捗にあわせて断続的に実施され、平成12年6月2日に終了した。

第2節 調査の体制

八幡裏遺跡群海禅寺裏遺跡・道祖神遺跡の発掘調査に係る調査の体制は以下のとおりである。調査事務は上田市教育委員会事務局文化課文化財係（機構改革により平成12年4月より生涯学習課文化財係）が行った。

教 育 長	我 妻 忠 夫	
教 育 次 長	内 藤 政 則	
文 化 課 長	川 上 元	(平成 12 年 3 月 31 日 退任)
生 涯 学 習 課 長	塩 野 崎 利 英	(平成 12 年 4 月 1 日 着任)
文 化 財 係 長	細 川 修	
主 査	平 林 裕 藏	
	中 沢 徳 士	
	塩 崎 幸 夫	(担当者)
	久 保 田 敦 子	
	西 澤 和 浩	(平成 11 年 9 月 30 日 退任)
主 事	清 水 彰	(平成 12 年 3 月 31 日 退任)
	小 笠 原 正	
囑 託	須 齋 千 恵 子	(平成 12 年 3 月 31 日 退任)

調査及び整理作業員（敬称略・五十音順）

費場奈那江、池田市郎、井沢光子、石合好江、市村みつ子、上原祐子、大井敬子、小柳治雄、
金澤修治郎、河上純一、甲田五夫、田村まり子、田村雄二、保谷野友延、丸田由紀子、
柳沢栄治、山本万里、横沢生枝、横沢 昇

第 3 節 調査日誌（抄）

平成 11(1999)年

- 5 月 6 日（木） I 区調査着手。重機による表土除去とともに遺構検出作業を開始する。
- 6 月 8 日（火） III～V区調査着手。表土除去を開始する。
- 6 月 9 日（水） I 区 RCヘリコプターによる測量用写真と全景写真の撮影を行う。
- 6 月 14 日（月） I 区調査終了。
- 7 月 14 日（火） III～V区 RCヘリコプターによる測量用写真と全景写真の撮影を行う。
- 7 月 15 日（水） V区西側の表土除去開始。遺構皆無。
- 7 月 30 日（金） III区調査終了。
- 8 月 2 日（月） VI区調査着手。表土除去を開始する。
- 8 月 6 日（金） VI区調査終了。

平成 12(2000)年

- 3 月 6 日（月） VII区調査着手。表土除去を開始する。

- 3月10日(金) VII区調査終了。
4月26日(水) II区調査着手。表土除去を開始する。
6月1日(木) II区RCヘリコプターによる測量用写真と全景写真の撮影を行う。
6月2日(金) 機材撤収。現場調査終了。

以後、上田市埋蔵文化財整理室において、遺物整理作業と報告書作成作業を行い、平成13年3月21日に報告書が刊行され調査はすべて終了した。

第4節 調査の方法

1 遺跡名

上田市の埋蔵文化財包蔵地分布調査が行われた昭和40年代後半には、本遺跡の周辺は既に宅地化が進行し、個々の遺跡の範囲を確認するのは困難な状況であった。分布調査報告書として昭和52年に刊行された上田市教育委員会『上田市の原始・古代文化』では、小字名に拠って思川遺跡、大星前遺跡、海禅寺裏遺跡、新田遺跡、道祖神遺跡、八幡東遺跡、八幡裏遺跡等の遺跡名が与えられたものの、分布範囲は不明確な遺跡が多かった。

その後、埋蔵文化財分布地図を作成するにあたり、範囲の不明確な上記7遺跡を一括して範囲指定し、「八幡遺跡」と総称した(長野県教育委員会『長野県市町村遺跡分布地図』1977.3、上田市教育委員会『上田市文化財分布図』1979.12、文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 長野県』1983.3、長野県史刊行会『長野県史 考古資料編(一)遺跡地名表』1981.3)。

上田市教育委員会は、平成6(1994)年に長野県職員住宅建設工事に伴う発掘調査に臨み、「八幡遺跡」を「八幡裏遺跡」と改め(上田市教育委員会『市内遺跡Ⅲ』1994.3、上田市教育委員会ほか『八幡裏遺跡Ⅰ』1995.3)以後、「八幡裏遺跡」の名称を周辺遺跡群の総称として用いている。

今回の発掘調査に係る地域は、東半が字海禅寺裏、西半が字道祖神に所在し、調査で確認された遺跡の範囲もほぼ字名どおりに区別することが可能であった。双方の遺跡の所産期や遺構の状況は全く別個のもので、従来調査された八幡裏遺跡の集落遺跡とも異なる遺跡と判断された。従って本報告書においては、混同を避けるために広義の「八幡裏遺跡」は「八幡裏遺跡群」として記述し、調査された2遺跡は字名に従い海禅寺裏遺跡と道祖神遺跡として記述することとした。

2 遺跡略号

各種の記録や遺物の注記等に用いる遺跡略号は、それぞれの遺跡名の頭文字から、海禅寺裏(KA I-ZEN-J I-U RA)遺跡は「KZU」、道祖神(DOU-SO-J IN)遺跡は「DSJ」とした。

3 調査座標とグリッドの設定

調査グリッドは、国土地理院の平面直角座標第Ⅶ系を座標変換して設定した。座標原点は、調査区域の南東隅に位置する $X=45174.00$ 、 $Y=-21681.00$ に置き、座標原点を起点として平面直角座標軸に沿って $3\text{m} \times 3\text{m}$ の調査グリッドを設定した。グリッドの番号は、座標原点から北に向かって 3m 毎に $A \cdot B \cdot C \cdot D \dots$ 、西に向かって 3m 毎に $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \dots$ の番号を与え、この両者の組合せによりF5、G32のように表した。

4 調査方法

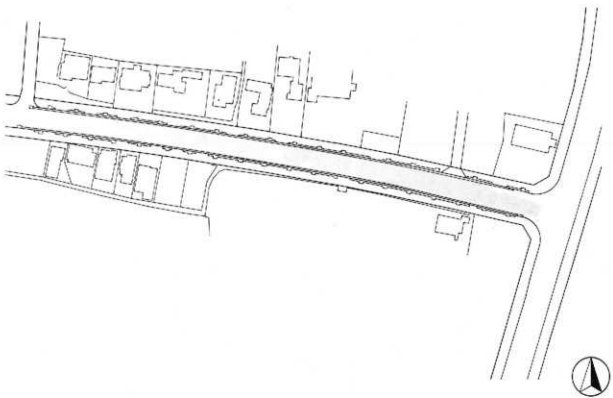
調査範囲は、試掘調査の結果及び都市計画課との協議に基づき東西長約 200m 、幅員 9m の車道の範囲とした。ただし、現市道部分については除外したため、調査範囲は西側で次第に狭まっている。

また、住宅移転の都合と、生活道路として現市道との通路を確保するため、部分毎に分けて調査する必要があったため、Ⅰ区からⅦ区までの調査区を設定した。

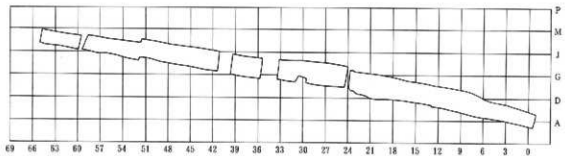
表土の排除にはバックホーを用い、その後の遺構検出、堀上げ作業は人力によって行った。

5 遺構測量

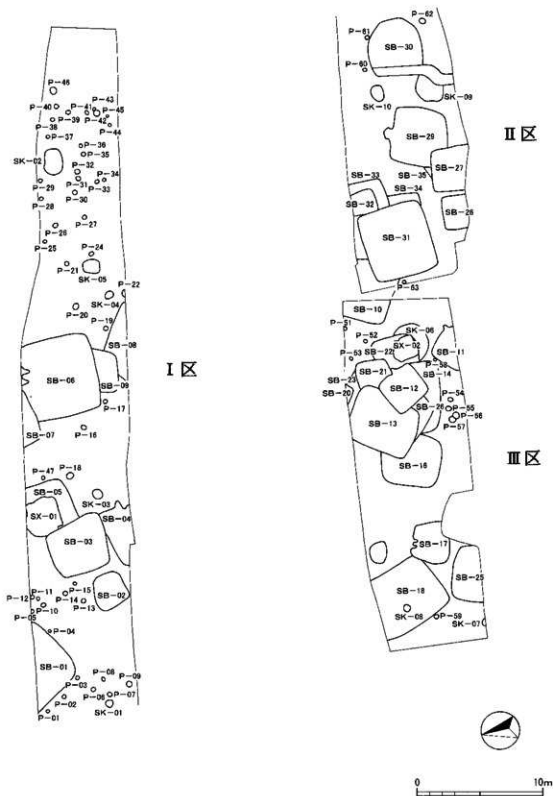
遺構の平面実測は、前述の調査グリッドを基準に簡易遣り方方式で行い、さらにラジコンヘリコプターによる測量用空中写真の撮影と図化作業を株式会社協同測量社に委託して実施した。



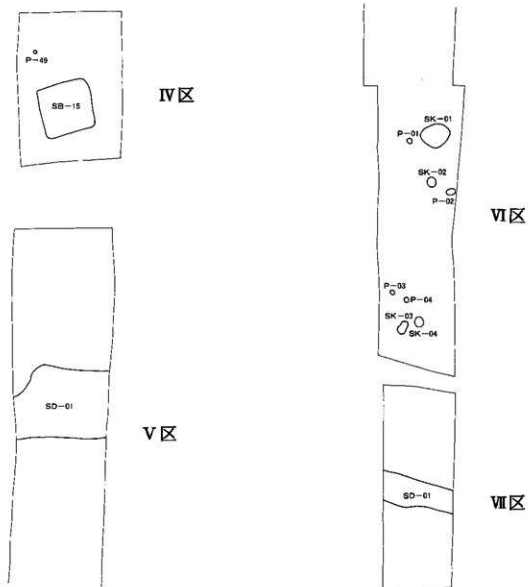
第 1 図 発掘調査範囲図



第 2 図 調査グリッド配置図



第 3 図 遺構全体図(1)



第 4 図 遺構全体図(2)

第2章 遺跡の環境

第1節 自然的環境

八幡裏遺跡群の所在している上田盆地は、長野県の東部に位置する小盆地である。上田盆地の地形は、北方を底辺とする逆三角形を呈し、一辺はほぼ 10km である。北方の基盤は第三系の太郎山脈で、南西方の基盤は小牧山地である。東方の高まりは基盤ではなく第四系の烏帽子火山となっている。上田盆地の南西方には、塩田平と呼ばれる小盆地が接しており、両盆地の間を千曲川が南東から北西に流下している。

遺跡の北に聳える太郎山脈は、西は岩鼻から東は戸石城まで屏風のように連なり、中央の黄金沢溪谷によって太郎山(1,164m)と東太郎山(1,300m)とに分けられている。黄金沢より西方の稜線は、多少の凹凸をみせ、至る所に岩肌が露出し植生も良くない。太郎山の西の虚空蔵山(1,076m)は、岩肌を露出して虚空に突出している。その南斜面は急峻で、山麓線は直線的に上田盆地に接している。それに対して、黄金沢の東方の山麓には丘陵状の尾根が伸びている。最東方には上野と呼ばれる丘陵性の台地が付属し、最高所はこれも虚空蔵山(762m)と呼ばれている。この台地は烏帽子火山から流出した溶岩台地で、神川左岸の矢沢方面と地質的には同質であり、もとは続いていたものである。

太郎山脈の南麓には、いくつかの河谷が数えられ、谷の出口には扇状地や崖錐が発達している。八幡裏遺跡群の所在する黄金沢扇状地は、黄金沢川の形成した最大の規模を持つ扇状地で、南は矢出沢川によって切られ、西は千曲川第1段丘を崩して第2段丘面にかかり、扇末部は虚空蔵沢の出口にまで及んでいる。黄金沢の名称は、石英安山岩質の凝灰中に黄鉄鉱を含んだ鉱脈があることに由来し、かつては採掘されていた形跡がある。

上田盆地付近の地質構造は、基盤の第三系が落ち込み、第四系がそれを埋めて堆積している。千曲川右岸の山地は、大部分が中新世の内村層で、伊勢山付近の一部に別所層が分布している。内村層及びその相当層は、上田市北方・真田町・坂城町北方・更埴市・長野市松代・須坂市東方などに分布しており、上田市北方地域の内村層は、下位から大峰山層・太郎山層・横尾層に区分される。大峰山層は、主に黑色頁岩からなり、まれに安山岩質で緑色の火山岩層や砂岩層をはさむ。層厚は 800m 以上である。太郎山層は、大峰山層を整合に覆い、石英安山岩ないし流紋岩質凝灰岩からなる。層厚は 600m を測る。横尾層は、石英安山岩ないし流紋岩質凝灰岩、及び同質角礫岩と黑色頁岩の互層で、層厚は 900m 以上である。これらの火砕岩は、淡緑色で、変質が著しく、大峰山層は、曹長石・緑泥石、太郎山層は、曹長石・石英・緑泥石、横尾層は、曹長石・石英・緑泥石岩雲母を主として絹雲母・方解石・白チタン石・緑れん石などを伴う組合せがみられる。

平地に分布する第四系は、下位から虚空蔵山層・染屋層・上田泥流堆積物・河岸段丘堆積物・扇状地堆積物に区分される。虚空蔵山層は第四系の最下層で、岩清水台地、太郎山の麓にあたる斜面を形成する。東部では主に烏帽子火山の安山岩質の凝灰角礫岩からなり、烏帽子火山に由来する礫岩・砂

年代区分		地層区分		主な火成活動		大型動物化石			
1700万年前 1500万年前 1400万年前 1100万年前 500万年前	代 生 第 三 紀	新 紀	更新世	扇状地・崖錐堆積物	湖 沼 の 堆 積	上田泥流 鷺場火山灰流 烏帽子岳輝石安山岩 神科虚空蔵山輝石安山岩	ナウマンゾウ(下本郷・青木村当郷) アジアノロバ(上室賀)、エゾシカ(神畑)、ヤベ オオツノシカ(青木村当郷) アケボノゾウ(丸子町塩川)		
				古亦縄文					
			完新世	上田湿地性堆積物					
			上新世	上田原湖成層					
		1700万年前 1500万年前 1400万年前 1100万年前 500万年前	代 生 第 三 紀	新 紀	鮮新世	大 杭 層		物 海 の 堆 積 物	茂沢溶結凝灰岩 半湯岩鼻角閃石石英ひん岩 太郎山天巻岩流紋岩 弘法山石英安山岩 小泉凝灰岩 独鈷山玄武岩質安山岩 緑色凝灰岩
						中新世			
					漸新世 始新世 堯新世	青木層			
						別所層			
						内村層			
						内村層			

第 1 表 上田地域の地層区分表

層をはさむ堆積物である。太郎山山麓では、太郎山の内村層に由来する緑色凝灰岩の角礫からなる礫層である。岩清水付近では、200m以上の層厚があり、上部を立山火山起源のクリスタルアッシュ層が覆っている。染屋層は、染屋台の平坦面下を構成する主として礫層よりなる湖成層で、下部層と上部層に区分される。下部層は成層した粘土層と砂礫層の地層で、上田盆地一帯に分布し、千曲川や神川の河床に露出している。層厚は 50～70m以上である。上部層は虚空蔵山層と上田泥流堆積物の分布地域の間に分布し、礫層を主として砂層をはさんでいる。最上部を水中堆積したと考えられる砂状浮石層が覆っている。上田泥流堆積物は、上田盆地の千曲川右岸から塩名田付近までの 20km にわたって存在する火山性泥流堆積物で、染屋層上部を削り、その上を覆っている。起源は不明だが、火山灰のマトリックス中に 5～20cm 大の安山岩角礫がまばらに混入し、まれに 2～3m の巨石も存在する。上田城跡南側に好露頭があり、層厚は約 8m を測る。河岸段丘堆積物は、千曲川や神川に沿って形成され、砂層をはさむ円礫で構成されている。

八幡裏遺跡群は、黄金沢扇状地西端で和合沢の小扇状地の末端に所在している。今回の発掘調査が行われた付近の地形は、海禅寺裏遺跡第 1 号住居址付近を最高点として、東西方向及び南方向に向かって緩やかに傾斜しており、西方の道祖神遺跡では、約 1.6m の扇状地堆積物に覆われていた。遺構検出面の標高は、第 1 号住居址付近で 474.30m、道祖神遺跡で 471.10m を測る。

第2節 歴史的環境

太郎山脈南麓一帯の考古学的遺跡を概観すると、東側の黄金沢扇状地から西の千曲川第2段丘面にある秋和集落付近にかけて、扇状地の扇頂部や扇端部、千曲川の段丘に沿って多数の遺跡が分布している。しかしながら、扇状地の押し出しによる遺跡・古墳の埋没や、市街化の進行によって分布調査の困難な地域も多いことから、遺跡の分布はより広範に及ぶものと推測される。

1 縄文時代

太郎山脈南麓地域で最も古い遺跡は、秋和地籍の第2段丘面西端に所在する宮原遺跡である。宮原遺跡からは縄文時代前期の上原式期の土器や石器が表採されている。

縄文時代中期になると遺跡の数や規模は増大し、塩尻地籍の弥勒堂遺跡、秋和地籍の風呂川遺跡、六句遺跡、常磐城地籍の上平遺跡、上田地籍の大星西遺跡、思川遺跡、大屋前遺跡とともに、今回調査された海禅寺裏遺跡、道祖神遺跡が該期の遺跡として知られる。上田地籍の5遺跡は、黄金沢扇状地の南西端に所在する一連の遺跡群として把握でき、特に国立長野病院（旧国立東信病院）敷地を中心とした思川遺跡は、上田地方を代表する該期遺跡のひとつとしてあげることができる。

思川遺跡は、昭和27年に病棟の改築工事に伴って五十嵐幹雄氏によって発掘調査が行われた。調査では明確な遺構は確認されなかったものの、中期後葉から後期中葉にかけての土器や石器とともに、ニホンジカ、イノシシを中心とする相当量の動物遺存体が出土した。その後、平成6年に国立長野病院の建設工事に伴い約8,000㎡が発掘調査され、柄鏡形敷石住居址を含む住居址7軒と土壇、集石遺構などが検出された。中でも土壇から検出された屈葬人骨は、遺存状態も良く、貴重な調査例となった。出土した遺物は、中期の加曾利EⅣ式系、後期の称名寺式系、堀之内Ⅰ・Ⅱ式系、加曾利B式系などの土器のほか、石器類、土偶、大珠、獣骨など多岐にわたっている。

今回の発掘調査では、海禅寺裏遺跡からは縄文時代の遺物は出土しなかったものの、道祖神遺跡からは中期から後期にかけての遺構と遺物が検出された。

塩尻地籍の弥勒堂遺跡は、虚空蔵山南麓の小扇状地の扇頂部に所在しており、新幹線建設工事に伴い、平成4年に財団法人長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われた。縄文時代の遺構は確認されなかったが、中期から後期の土器片や石器が出土している。

2 弥生時代～古墳時代前期

縄文時代晩期から弥生時代後期前半にかけての遺跡は、上田地方では僅かしか確認されていない。八幡裏遺跡は数少ない該期遺跡のひとつで、大正14年に上田温泉電軌北東線の敷設工事が行われた際に、弥生時代中期栗林Ⅱ式期の壺形土器2点と大型始刃石斧が出土している。

弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての遺跡は、前述した宮原遺跡、風呂川遺跡、上平遺跡、海禅寺裏遺跡のほか、黄金沢扇状地の扇頂部付近には東奥山原遺跡、南西面には雁堀遺跡、南東端の

矢出沢川沿いには金井裏遺跡が確認されている。また、市街化のため分布範囲は明らかでないが、千曲川第2段丘面にも広範に遺跡が存在する可能性が高い。

上平遺跡は、太郎山脈南西麓標高約550mのテラス状台地に所在し、その特異な古地から高地性集落の可能性が指摘されている遺跡である。昭和43年の発掘調査では後期後半の箱清水式土器と集石を伴う土壌が検出された。また、送電線鉄塔建設に伴い昭和58年に行われた発掘調査では、後期終末から古墳時代初頭期にかけての竪穴住居址2軒が検出され、弥生土器から土師器へと移行する過渡期的特徴的な土器が出土している。

金井裏遺跡と宮原遺跡では、現在まで2回にわたる発掘調査が行われており、後期後半から古墳時代前期初頭にかけての竪穴住居址が検出されている。

今回調査された海禅寺裏遺跡からも弥生時代の竪穴住居址2軒、古墳時代前期の竪穴住居址4軒が確認され、特に第18号住居址からは弥生時代後期後半期の良好な一括土器とともに、長剣類を研磨したと推定される大型の波紋岩製砥石が出土している。また、第10号住居址からは古墳時代初頭期に比定される描線横線文と爪形文で加飾された小型高帯が出土しており、東海地方に系譜を迎える土器として注目される。なお、道祖神遺跡からも古墳時代前期から後期にかけての土器片が包含層の遺物として出土しており、該期の遺構が周辺に存在する可能性がある。

3 古墳時代中期～後期

古墳時代中期から後期にかけて上田地方でも古墳が盛んに築造されているが、太郎山脈南麓地域には古い時期の古墳が特に集中している。

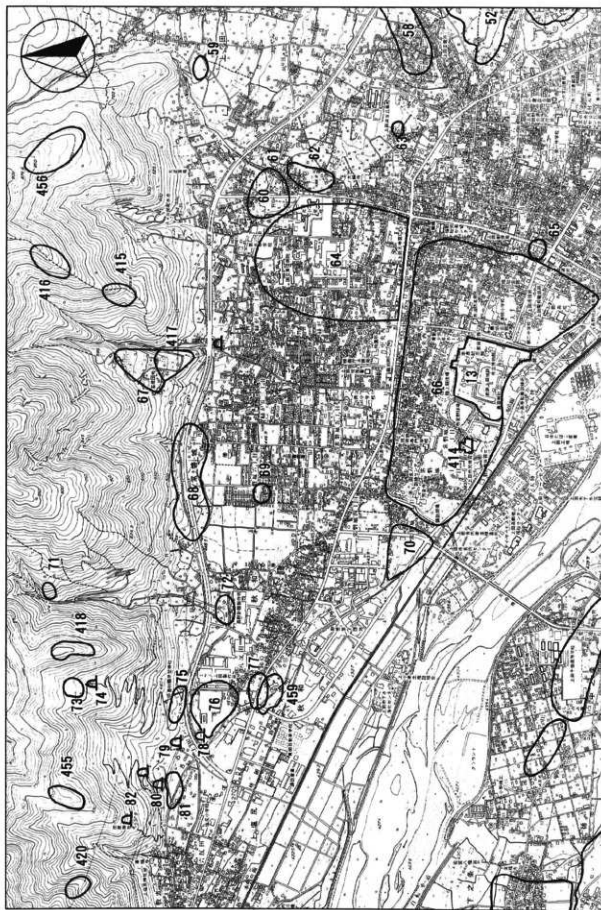
大蔵京古墳（上田市指定文化財）は、一辺が32～35mの方墳で、高さは5～8mを測る。墳丘上から表採された土師器により、4世紀末から5世紀前半の築造と推定されており、現在確認されている県内最古の方墳で、上小地域では最古の古墳である。

風呂川古墳は、墳丘は失われていたが、平成4年に財団法人長野県埋蔵文化財センターによって北側周濠の一部が調査された。周濠の幅は4～5.5m、調査面からの深さは約1.5mを測る。北東辺の北隅寄りには、掘り残しが1か所設けられ、その西側から石組みとともに多数の土師器が出土した。古墳の規模は、一辺が25～30mの方墳と推定され、築造年代は、一括出土した土師器より5世紀第2四半期と推定されている。

二子塚古墳（上田市指定文化財）は、八幡裏遺跡群の北東方に位置しており、定型化した前方後円墳としては東信地方で唯一の古墳である。墳丘は後世の改変が激しいが、現在の規模は、中軸の全長約51m、前方部の長さ約26m、最大幅約25m、高さ約5m、後円部の長さ約25m、最大幅約39m、高さ約6mを測る。古墳の北側には周濠の一部とみられる窪みがあり、墳丘から表採された円筒埴輪片から6世紀前半の築造と推定されている。本古墳の周囲にはかつて4～5基の円墳が存在していたと伝えられるが、現存するのは北西部の円墳1基のみである。これらの古墳は、二子塚古墳の陪塚と言われていたが、時期的に異なるため現在では否定されている。

県番号	名称	市番号	名称	所在地	時代	備考
13	上田城跡	060	上田城跡	上田字二の丸	近	国史跡・90～95年調査
52	染屋台桑里水田跡遺跡		染屋台桑里水田跡遺跡	上野・住吉・吉里・国分	弥～平	系統的に調査
58	金井裏遺跡	301	金井裏遺跡	上田字金井裏	弥～奈	85・96年調査
		303	蟹原遺跡	上田字蟹原	弥・古	
		304	桜林遺跡	上田字桜林	弥	
59	東奥山原遺跡	302	東奥山原遺跡	上田字東奥山原	弥・平	
		302	二子塚古墳	上田字秋葉裏	古	市史跡
60	二子塚古墳	303	二子塚古墳・陪塚	上田字秋葉裏	古	
		304	二子塚古墳・陪塚	上田字秋葉裏	古	湮滅
		305	二子塚古墳・陪塚	上田字秋葉裏	古	湮滅
		306	鷹田遺跡	上田字鷹田	弥	
61	大星西遺跡	309	大星西遺跡	上田字大星西	縄	
62	雁堀遺跡	307	雁堀遺跡	上田字雁堀	弥・古	
		308	秋葉裏遺跡	上田字秋葉裏	古	
63	西丘遺跡	305	西丘遺跡	上田字西丘	古	
		310	思川遺跡	上田字思川	縄・古・平	52・94年～調査
64	八幡裏遺跡	311	大星前遺跡	上田字大星前	縄	
		312	海禅寺裏遺跡	上田字海禅寺裏	縄～平	本書所収遺跡
		313	新田遺跡	上田字新田	古	
		314	遠相神遺跡	上田字遠相神	縄・古	本書所収遺跡
		315	八幡裏遺跡	上田字八幡東	古	
		316	八幡裏遺跡	上田字八幡裏	縄～平	
		317	日蔭遺跡	上田字日蔭	縄	
65	海野遺跡	318	下房山遺跡	上田字下房山	弥	
		319	海野遺跡	上田字海野	平	
66	上田城跡	060	上田城跡	上田字二の丸	近	
67	上平遺跡	330	上平遺跡	常磐城字上平	縄～平	68・83年調査
		331	横畑遺跡	常磐城字横畑	古	
		332	仁王田遺跡	常磐城字仁王田	古	
68	殿田遺跡	333	殿田遺跡	常磐城字殿田	古～平	85年調査
69	七反田遺跡	334	七反田遺跡	常磐城字七反田	古	
70	唐臼遺跡	341	唐臼遺跡	常磐城字唐臼	古～平	
71	堂平遺跡	335	堂平遺跡	秋和字堂平	古	
		336	寺山遺跡	秋和字寺山	古	
		337	龜田遺跡	秋和字龜田	古	
		338	山道遺跡	秋和字山道	古～平	
		339	大明神遺跡	秋和字大明神	古	
		340	堂屋敷遺跡	秋和字堂屋敷	古・中	
		342	甲弥陀平遺跡	秋和字甲弥陀平	古～平	
73	甲弥陀平遺跡	342	甲弥陀平遺跡	秋和字甲弥陀平	古	
74	弥陀平古墳	307	弥陀平古墳	秋和字甲弥陀平	古	
75	六句遺跡	343	六句遺跡	秋和字六句	縄・古～平	
		344	風呂川遺跡	秋和字風呂川	縄～平	
76	宮原遺跡	345	宮原遺跡	秋和字宮原	縄～平	97・98年調査
77	姥石遺跡	346	姥石遺跡	秋和字姥石	古	
78	宮原古墳	310	宮原古墳	秋和字宮原	古	湮滅
79	風呂川古墳	309	風呂川古墳	秋和字風呂川	古	92年調査
80	弥勒堂古墳	311	東山古墳	上塩尻字東山	古	湮滅
		312	弥勒堂古墳	上塩尻字弥勒堂	古	湮滅
81	弥勒堂遺跡	347	弥勒堂遺跡	上塩尻字弥勒堂	縄・古～中	92年調査
82	持越古墳	313	持越古墳	上塩尻字持越	古	湮滅
		348	越畑遺跡	上塩尻字越畑	古～平	
		349	広見遺跡	上塩尻字広見	古	
		308	大蔵京古墳	秋和字大蔵京	古	市史跡
405	秋和八幡大蔵京古墳	308	大蔵京古墳	秋和字大蔵京	古	市史跡
414	小泉曲輪城跡	061	小泉曲輪城跡	上田字上田城廻り	中～近	
415	牛伏城跡	062	牛伏城跡	常磐城字虚空蔵	中	
416	アヲ城跡	063	アヲ城跡	常磐城字太郎山	中	
417	北林城跡	064	北林城跡	常磐城字上平	中	
418	飯綱城跡	065	飯綱城跡	秋和字飯綱山	中	
420	燕城跡	067	燕城跡	上塩尻字原	中	
439	豊原古墳	439	豊原古墳	常磐城字豊原	古	87年調査
455	持越城跡		持越城跡	上塩尻字持越	中	
456	花古屋城跡		花古屋城跡	上田字花古屋	中	
459	柿ノ木遺跡	459	柿ノ木遺跡	秋和字柿ノ木	古	94年調査

第2表 周辺遺跡一覧表



第 5 圖 周辺道跡分布図

後期の古墳は、前述の伝二子塚古墳陪塚のほか、塩尻地籍の東山古墳、弥勒堂古墳、持越古墳、秋和地籍の弥勒平古墳、宮原古墳が知られていたが、墳丘が現存するのは弥勒平古墳1基のみである。

弥勒平古墳は、虚空蔵山の南東山麓に所在する円墳で、石室の所在は不明だが、墳丘はほぼ完存しており、規模は東西径約21m、南北径約18.5m、高さ約3mを測る。

また、常磐城地籍では昭和62年に下水道工事中に新たな古墳が発見され、豊原古墳と命名された。豊原古墳は、完全に埋没していたが、横穴式石室の一部について発掘調査が行われ、鉄刀5口、刀装具、鉄鏝、金環、ガラス小玉等とともに5体以上の人骨が出土した。同古墳の隣接地には塚穴の地名が残り、かつては2基の古墳が所在したと伝えられている。

これらの古墳の築造を支えた集落遺跡は、太郎山南麓一帯に広く分布しているが、今回調査された海禅寺裏遺跡は、この時期の竪穴住居址が23軒と圧倒的に多く、過去の八幡裏遺跡群の発掘調査で確認された該期の集落遺跡とともに重要な集落遺跡と推定される。

4 奈良・平安時代

奈良、平安時代の遺跡も前代に引き続き、当地域の全域に広く分布している。今回の海禅寺裏遺跡の調査では、奈良時代の竪穴住居址2軒、平安時代の竪穴住居址2軒が検出された。また、近接する八幡裏遺跡群の第2次と第4次調査でも該期の集落遺跡が確認されている。

塩尻地籍の弥勒堂遺跡は、平成4年に行われた発掘調査によって、10世紀前半と推定される鍛冶工房跡1軒を含む4軒の住居址が確認されている。

秋和地籍の殿田遺跡は、上田バイパスの建設工事に伴い、昭和60年に発掘調査が行われ、竪穴住居址5軒のほか土坑、ヒットなどが検出された。遺構に伴う遺物は僅かであったが、奈良時代から平安時代後期にわたる多様な土器と鉄鏝、「和同開珎」銭などが出土している。

常磐城地籍の上平遺跡では、昭和43年の発掘調査によって奈良時代の須恵器窯1基が調査されたほか、行基式の丸瓦が採取されている。また、唐白遺跡は、令制東山道の亶理駅推定地とされているが、塔心礎とされる大石が現存し、瓦塔片が表採されていることなどから、古代寺院の存在も推測される。なお、常磐城地籍には、条里水田的地割りが存在しているが、住宅地化が進み失われつつある。

5 中世

中世の集落遺跡は、現在の集落と重なっている部分が多く不明な点が多い。秋和地籍の宮原遺跡では、数棟の独立柱建物址が確認され、柱穴覆土より「開元通寶」銭が出土したことから、該期の建物址と推定されている。また、塩尻地籍の弥勒堂遺跡では、4基以上の土壌墓が発掘調査されている。

中世独特の考古資料としては、秩父産の緑泥片岩を用いたいわゆる武蔵型板碑がある。武蔵型板碑は、埼玉県を中心に関東地方に広く分布しており、長野県はその分布圏の西端にあたる。当地域からは、秋和地籍で1基、塩尻地籍の信福寺跡から10基が出土している。信福寺跡から出土した10基は、嘉元2年(1304)から宝徳4年(1452)までの記年銘があり、上田市の文化財に指定されている。

また、中世の戦乱を背景に太郎山脈の山頂や中腹には数多くの山城が構えられている。山城跡は、東より戸石城跡、柏山城跡、花小屋城跡、アラ城跡、牛伏城跡、北林城跡、飯綱城跡、虚空蔵山城跡、持越城跡、高ツヤ城跡、燕城跡、和合城跡とつづき、戦国末期には、葛尾城を本拠とする村上氏の支配となり、村上連珠砦と称された。

6 近世以降

天正 11(1583)年より真田昌幸によって上田城の築城と城下町の形成が開始され、この地の様相は一変する。昌幸は、矢出沢川の流路を変えて外堀とし、近隣から寺社や人々を城下に移らせて大規模な城下町の形成を図った。今回の発掘調査地点は上田城下町の北端にあたり、地名の由来となっている八幡社、海禅寺及び海禅寺に隣接する呈蓮寺は、いずれも昌幸によって計画的に移された社寺である。

上田城は、城郭自体の規模はさほど大きくはないが、南方は千曲川の分流である尼ヶ淵に面した断崖に臨み、他方は城下町と河川が巧みに配され、周辺一帯が極めて堅固な防御陣地として機能した。真田氏の上田城は、天正 13(1585)年と慶長 5(1600)年の 2 回にわたって徳川氏による攻撃を受けるが、いずれも退け、近世城郭としては他に類のない武名を誇った。天正 13 年の合戦以降、昌幸は豊臣秀吉に臣従し、松本城の石川氏、小諸城の仙石氏、甲府城の浅野氏、掛川城の山内氏などとともに関東の徳川家康を包囲するように城郭と城下町の整備に努めた。上田城跡から出土している五七桐紋の鬼瓦片や、菊花紋軒丸瓦、金箔を押した鯉瓦、鬼瓦、烏倉瓦などは、当時の上田城にかなり大規模な建造物群が存在していたことと、豊臣氏との密接な関係を示唆している。しかし、真田氏の上田城は、関ヶ原合戦後の慶長 6(1601)年に徳川氏配下の諸将によって徹底的に破却され、その遺構は全く残っていない。

現存する上田城は、元和 8(1622)年に真田信之に代わり上田藩主となった仙石忠政によって、新たに築き直された城郭である。上田城再築工事は、寛永 3(1626)年から開始され、2 年後の寛永 5 年に忠政が病床に伏すまで続けられ、堀、土塁、石垣等の普請(土木工事)は完成したものの、櫓や櫓門を建てる作事(建築工事)は、本丸に 7 棟の二層隅櫓と 2 棟の櫓門が完成したのみで、忠政の病死以後、再開されることなく未完成に終わった。

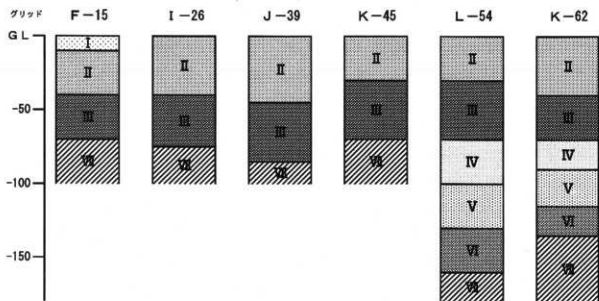
上田城の石垣に用いた石材の大部分は、太郎山の各所から切り出された緑色凝灰岩で築かれており、矢穴の残る石切り場跡や「石切」の地名が残っている。また、上田城の周辺に残る「石ノ町」の地名は、石材の集積・加工場の跡と推測されている。

仙石氏とその後に入封した松平氏は、蚕糸業の育成に力を注ぎ、上田は国内有数の良質な蚕種の生産地に発展した。明治・大正期にも良質な蚕種・生糸の生産と、三吉米熊らによる人材育成によって、上田は近代日本の主要産業となった蚕糸業の発展に大きく貢献した。八幡裏遺跡群の所在する黄金沢扇状地は、昭和初期までは一面の桑園が広がり、上田の蚕糸業を支えていたが、蚕糸業の衰退や人口の増加により、果樹への転作や宅地化が進み、市内でも良好な住宅地へと変貌して現在に至っている。

第3節 基本層序

今回の発掘調査に係る地域の基本層序は、以下のとおりである。概ね扇状地の押し出しによる角礫を多く含み、締まり・粘性に乏しい砂礫土層で構成されている。遺構検出面の地形は、海禅寺裏遺跡第1号住居址付近を最高点として、東西方向及び南方向に向かって緩やかに傾斜しており、西方の道祖神遺跡では、約1.6mの扇状地堆積物に覆われていた。遺構検出面の標高は、第1号住居址付近で474.30m、道祖神遺跡で471.10mを測る。

- I層 7.5YR4/1 褐灰色砂質土 小礫を含む 盛土
- II層 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 表土
- III層 7.5YR2/1 黒褐色砂礫土 1~5cmの角礫を多く含む
- IV層 10YR5/4 にふい黄褐色砂礫土 5cm程度の角礫を多量に含む
- V層 7.5YR3/1 黒褐色土
- VI層 7.5YR3/4 暗褐色土 1~5cmの角礫を多く含む
- VII層 7.5YR5/4 にふい黄褐色砂礫土 1~3cmの角礫を多く含む 遺構検出面



第6図 基本層序模式図

第3章 調査の結果

第1節 海禅寺裏遺跡の調査

八幡裏遺跡群海禅寺裏遺跡は、調査範囲の東半に所在し、字名どおり海禅寺の裏手に隣接している。遺跡は東西約120mにわたって展開しているが、竪穴住居址はⅠ区の第6～9号住居址を東端とし、Ⅳ区の第15号住居址を西端とする東西約90mの間に密集している。住居址群の東側には、土坑やピットがまばらに点在し、遺跡縁辺部の様相を呈している。また、西側はⅤ区の東側において自然流路と推定される第1号溝状遺構が検出されたのみで遺跡は完全に塗絶している。

今回の発掘調査によって検出された遺構は、竪穴住居址34軒、溝条遺構1条、集石遺構2基、土坑10基、ピット59基である。遺構の所産期は、弥生時代後期から平安時代後期に亘っている。

以下、特徴的な遺構と遺物について概略を報告する。

1 弥生時代後期

弥生時代後期の遺構は、Ⅲ区において2軒（SB-18・22）の竪穴住居址が検出された。このうち第18号住居址からは、壺、甕、深鉢、高坏、蓋及び砥石の良好な一括資料が出土した。土器は弥生時代後期後半期の箱清水式土器の標準的な特徴を備えている。住居址南西部から出土した大型の砥石は、三角柱状を呈する流紋岩製で研磨面はほぼフラットに削られており、このような研磨面を残す遺物としては、鉄または銅などの金属製による剣や鉾等の身幅のある長剣類が想定される。

2 古墳時代前期

古墳時代前期の遺構は、竪穴住居址4軒（SB-10・16・23・24）が検出されたが、後世の遺構によって破壊された部分が多く、遺物も小片が多かった。このうち、第10号住居址は、弥生時代終末期から古墳時代初頭期と推定される住居址で、在地の箱清水式土器とともに東海地方に系譜を持つと考えられる櫛描横線文と爪形文及び円形透かし窓に加飾された小型高坏が出土している。その他の住居址からも東海地方や畿内地方の影響を受けた土器が出土している。

3 古墳時代中期

古墳時代中期の遺構は、竪穴住居址3軒（SB-20・21・31）と土坑1基（SK-08）が検出された。このうち、第20号住居址は、遺構のごく一部しか調査できなかったが、ほぼ完形の高坏・埴・甕がまとめて出土している。第21号住居址も遺構の遺存状況は良くなかったものの良好な一括土器が出土した。第31号住居址は、5.9×5.6mの隅丸方形を呈する大型の住居址で、一部後世の遺物が混入しているものの良好な土器が出土している。また、第18号住居址を切って掘られた第8号土坑からは3点の埴がほぼ完形で出土している。

4 古墳時代後期

古墳時代後期の遺構は、竪穴住居址 17 軒（SB-01~06・08・09・11~15・17・25・26・35）が検出された。その他、所産期の不明瞭な住居址や土坑等も概ねこの時期の所産と推測される。この時期の遺構や遺物は、質、量ともに他の時期を凌駕し、海禅寺裏遺跡の最盛期といえる。

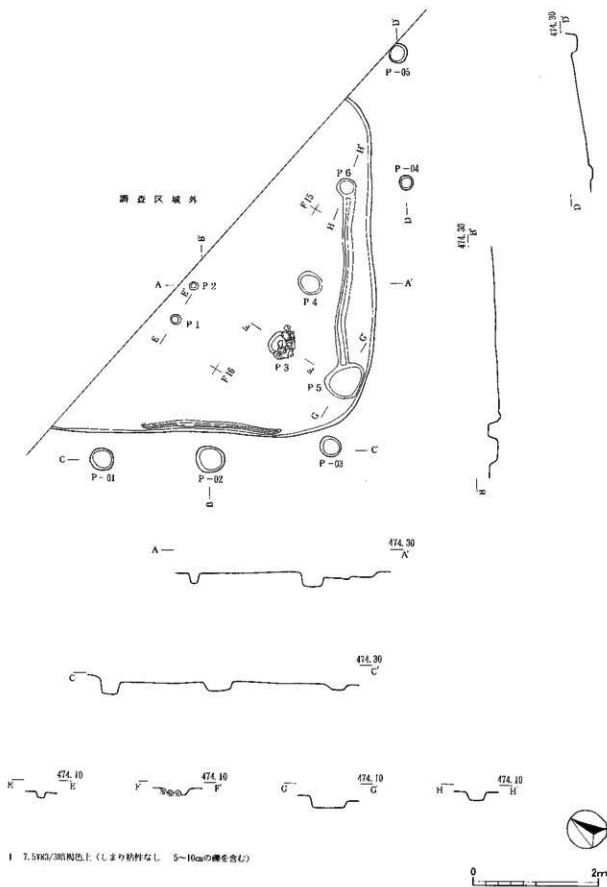
これらの住居址のうち、第 1 号住居址は、5 基のピットを竪穴の周囲に有し、外柱穴としていたものと考えられる。第 3 号住居址は、火災住居で多量の遺物が出土している。第 4 号住居址は、東壁に石組粘土竈を有し、住居の廃絶に際して竈の天井石を破砕して竈を閉塞しているものと推測される。竈及びその周辺を中心に多量の土師器坏や甕の出土があった。第 6 号住居址は、6.3×5.9m の隅丸方形を呈する大型住居址で、北壁の中央部に石組粘土竈を設けている。本住居址は火災住居で竈右側付近を中心に多くの出土遺物があった。覆土の状況と竈火床の高さから、本址は火災後に床面を少し埋めて再構築し、竈を設置した可能性が推測される。また、前述した第 3 号住居址と近接しており、同時に焼失した可能性が考えられる。焼失前の本址と第 3 号住居址が竈を持たない住居であったことから、この第 6 号住居址の再構築の段階に当遺跡に竈が導入された可能性が考えられる。第 12 号住居址は、この周囲で多数重複していた住居址群のうち最終段階の住居址である。第 15 号住居址は、本遺跡の西端に所在する住居址で、多数の土師器高坏が出土している。

5 奈良時代

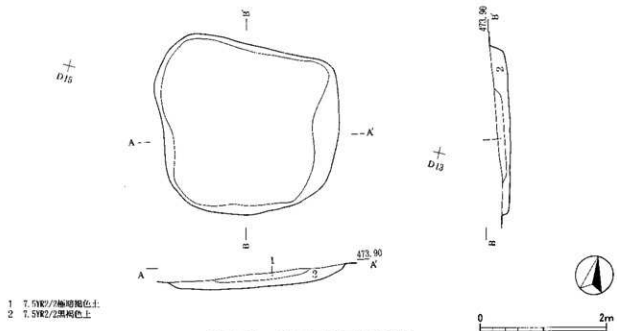
奈良時代の遺構は、竪穴住居址 2 軒（SB-07・29）と集石遺構 1 基（SX-01）が検出された。第 29 号住居址は、一辺 4.8m の隅丸方形を呈し、底部に刻書のある須恵器坏と、須恵器短頸壺、コップ形須恵器とも呼ばれる高台付きの坏（鉢）などが出土している。第 1 号集石遺構は、第 3・5 号住居址の上に 3~20 cm の礫を楕円形に集石したもので、礫とともに多量の土師器、須恵器、鹿角、骨片等が出土し、祭祀的な性格を有する遺構と推測される。

6 平安時代

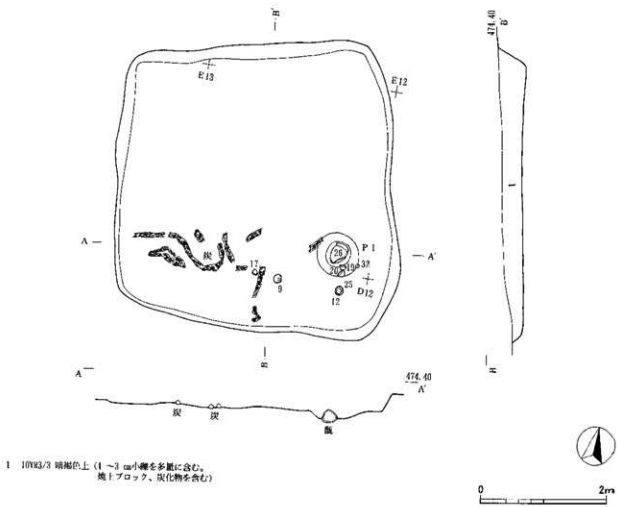
平安時代の遺構としては、竪穴住居址 2 軒（SB-27・30）が検出された。第 30 号住居址は、西側を下水道管敷設によって破壊されていたが、概ね略円形を呈すると考えられ、土師器の坏、碗、皿、壺、甕、須恵器の甕、灰軸陶器の碗などが出土しており、平安時代前期末頃の所産と推定される。第 27 号住居址は土師器の坏、碗、甕、羽釜と布目瓦片などが出土しており、平安時代末期の所産と推定される。また、東壁北寄りの竈跡と推定される焼土や炭化物層の中からバラ科植物の炭化種子が出土している。



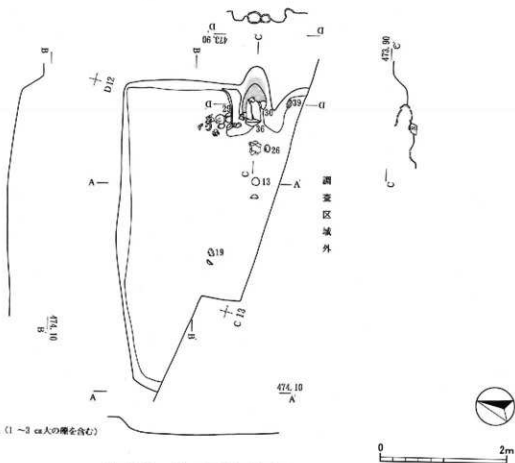
第7図 第1号住居址実測図



第 8 図 第 2 号住居址実測図

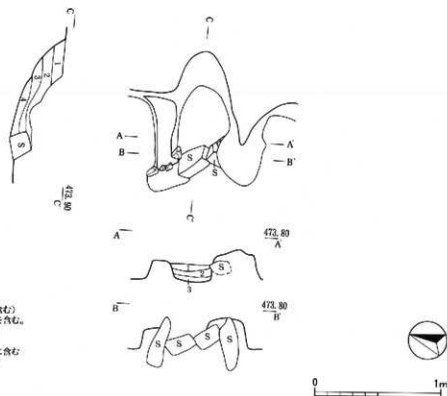


第 9 図 第 3 号住居址実測図



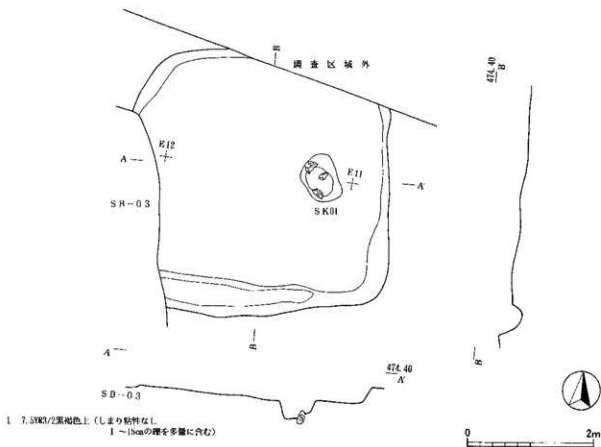
1 10YK3/3 暗褐色土 (1~3 cm層を含む)

第10図 第4号住居址実測図

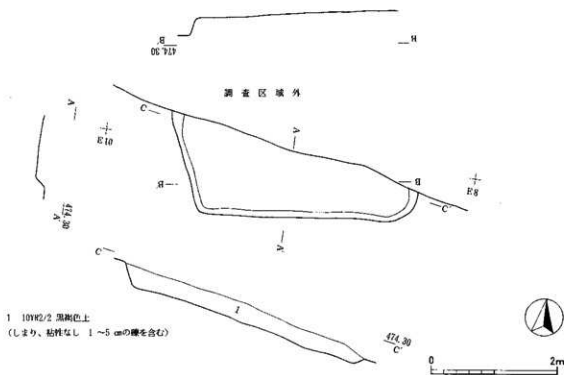


1 10YK3/3 暗褐色土 (1~3 cm層を含む)
 2 7.5YK2/2 黒褐色土 (炭化物・焼土を含む。
 やや粘性あり)
 3 10YK3/3 暗赤褐色シルト質土
 4 2.5YK3/3 暗赤褐色土 (焼土を多量に含む
 やや粘性あり)

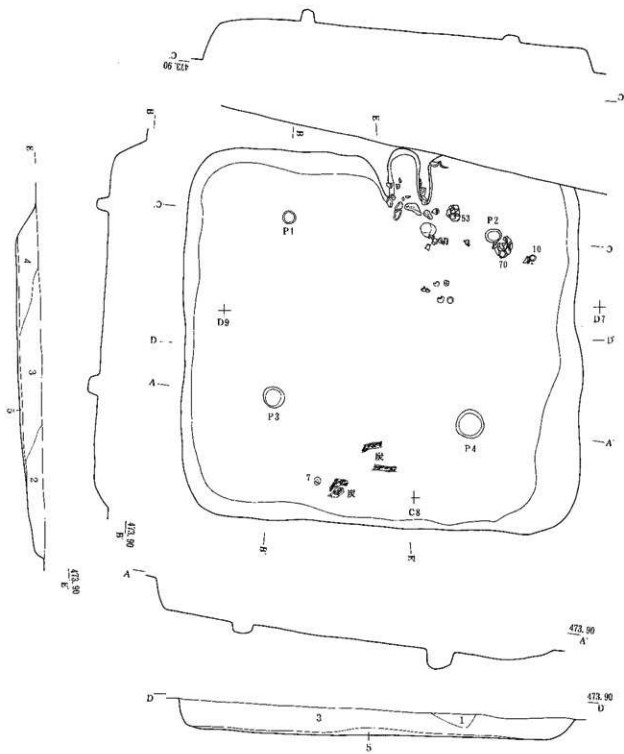
第11図 第4号住居址実測図



第12図 第5号住居址実測図

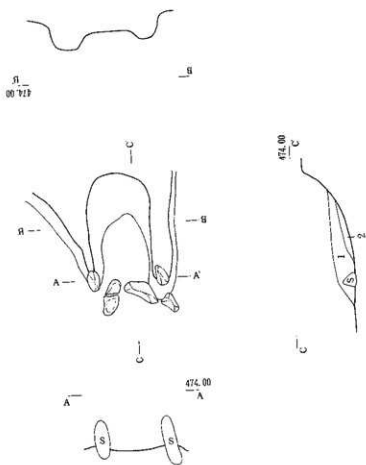


第13図 第7号住居址実測図



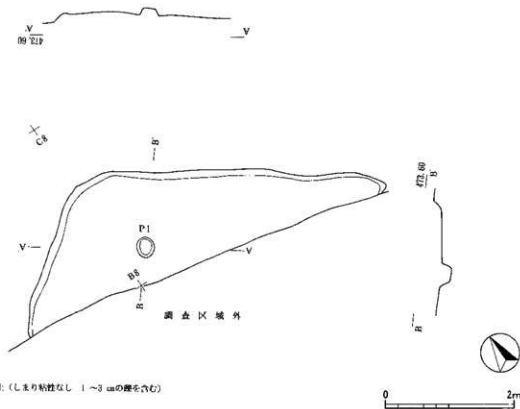
- 1 10YR5/3 黄褐色土
- 2 7.5YR5/3 暗褐色土
- 3 7.5YR5/1 黑褐色土
- 4 7.5YR4/1 棕色土
- 5 10YR2/2 黑褐色土 炭化物多集中在右

第14图 第6号住居址实测图

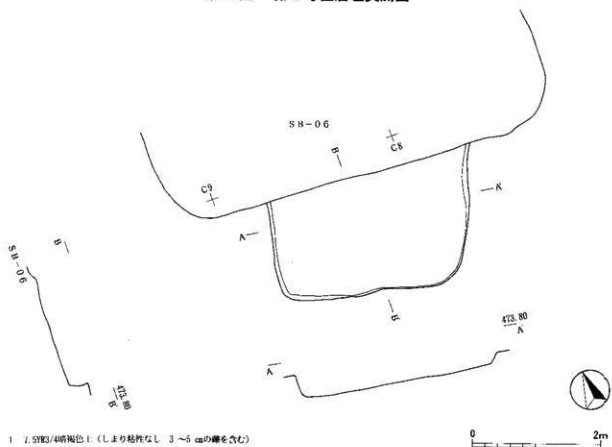


- 1 10YR3/7 暗褐色土 (1 ~ 3cmの層を含む)
- 2 2.5YR3/3 暗褐色土 (炭化物、焼土を多く含む・やや粘性あり)

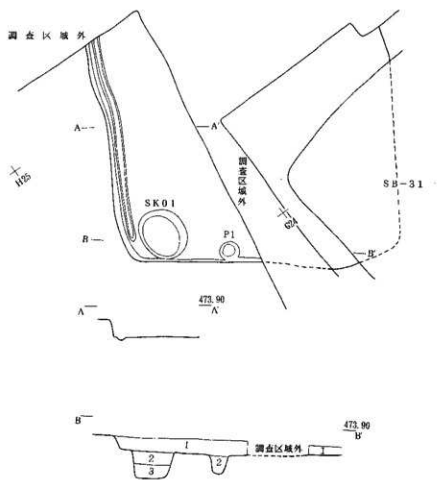
第15図 第6号住居址遺実測図



第16図 第8号住居址実測図



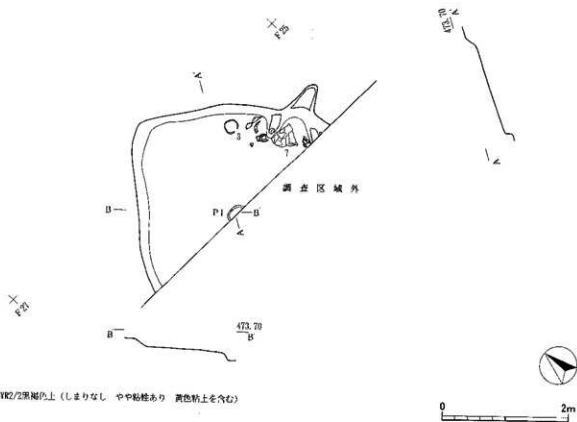
第17図 第9号住居址実測図



- 1 7.5YR2/2 黒褐色シルト質土
- 2 10YR4/3 鈍い黄褐色砂質土
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト質土

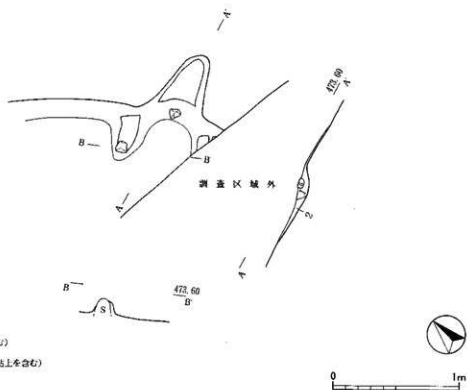


第18図 第10号住居址実測図



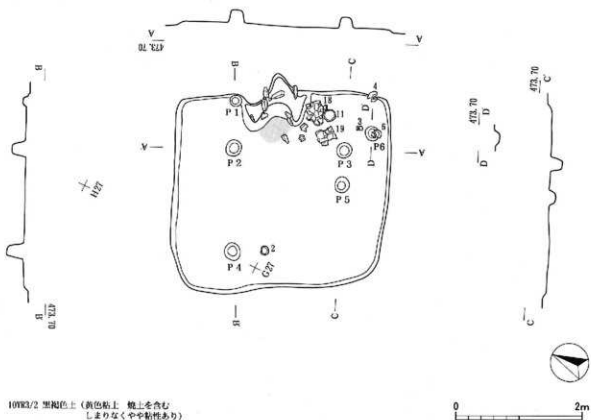
1 5VR2/2黒褐色土 (しまりなし やや粘粒あり 褐色粘土を含む)

第19図 第11号住居址実測図

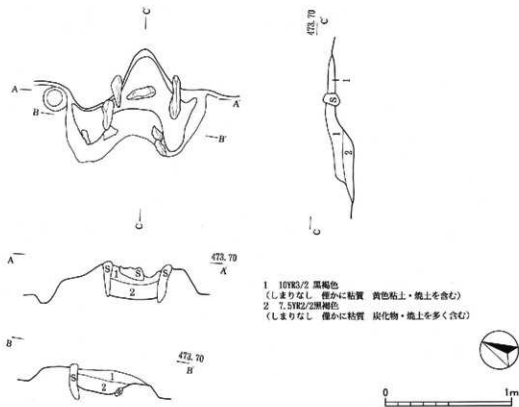


1 7.5VR3/2黒褐色土
(しまり粘粒なし 黄土を少し含む)
2 5VR2/2黒褐色土
(しまりなし 軽かに粘質 赤色粘土を含む)

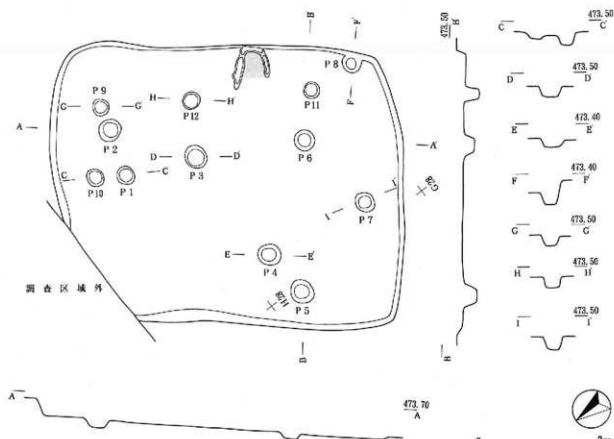
第20図 第11号住居址実測図



第21図 第12号住居址実測図

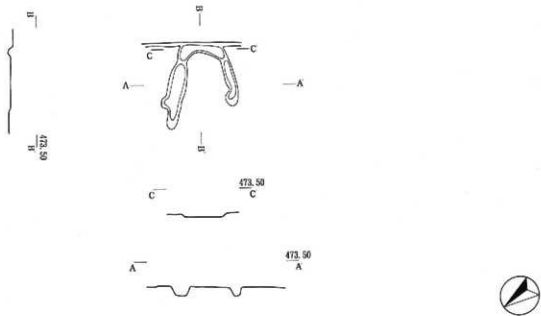


第22図 第12号住居址実測図



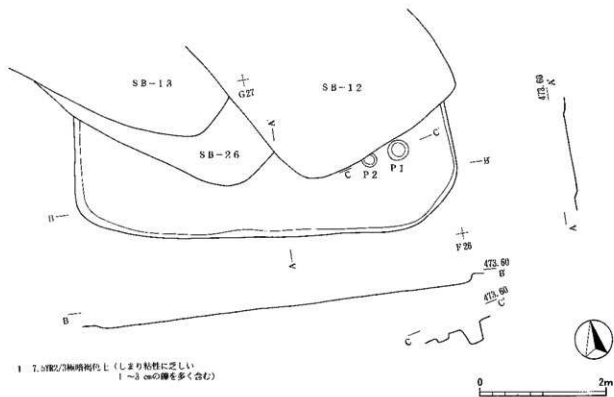
1 7.5YR2/3麻晒褐色土

第23図 第13号住居址実測図

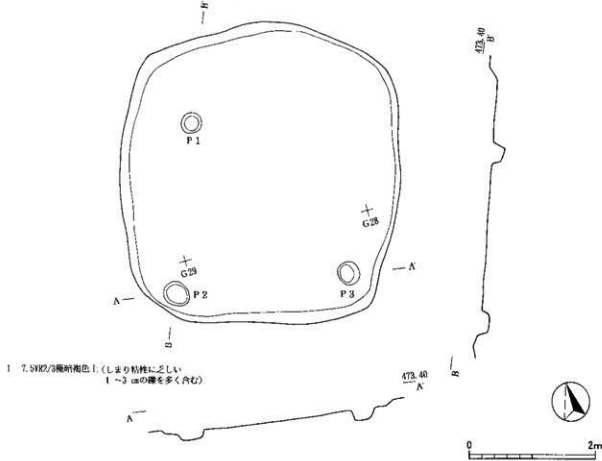


1 7.5YR2/3麻晒褐色土(しまり粘性に乏しい 1~3 cmの硬炭化物 粒上を多く含む)

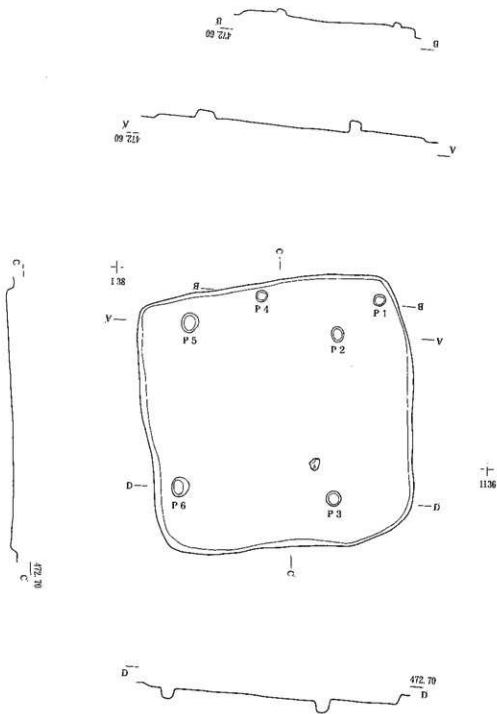
第24図 第13号住居址実測図



第25図 第14号住居址実測図

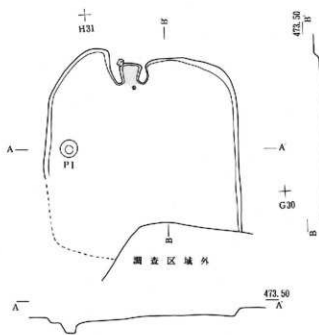


第26図 第16号住居址実測図



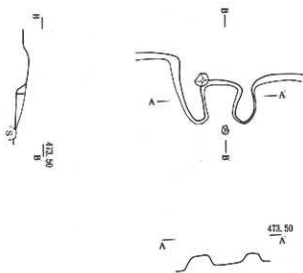
1 7.5KV2/2黒線納上(しまり杭敷なし)

第27図 第15号住居址実測図



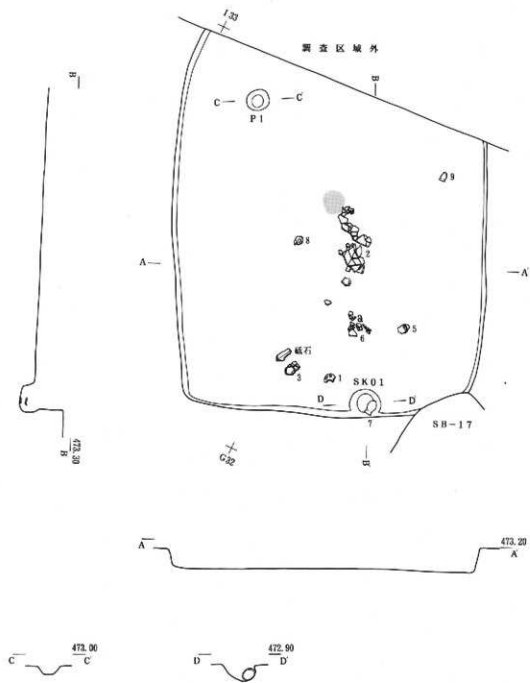
1 7.5W2/2黒褐色土 (しより粘状なし 砂礫を多く含む)

第28図 第17号住居址実測図



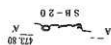
1 7.5W2/2黒褐色砂質土 (礫を含む)

第29図 第17号住居址実測図

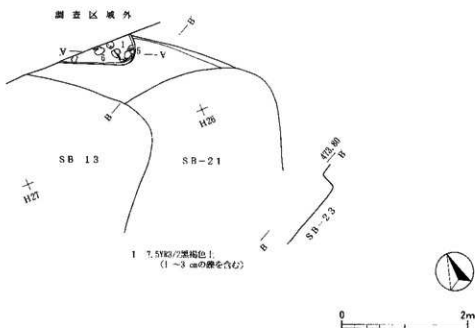


1 7.5Vx2/2黒褐色土（ややしまり粘性なし
1-3 cmの礫を多く含む）

第30図 第18号住居址実測図

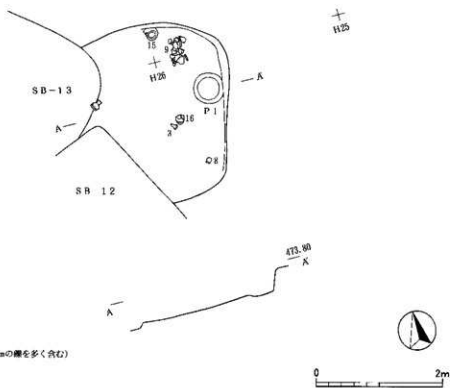


I 10YK2/2 黒褐色土 (1~3 cmの層を多く含む)



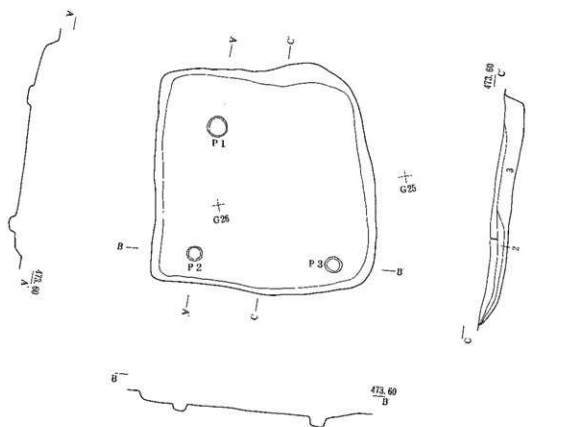
I 7.5YK3/2 黒褐色土 (1~3 cmの層を含む)

第31図 第20・23号住居址実測図



I 7.5YK2/2 黒褐色土 (1~3 cmの層を多く含む)

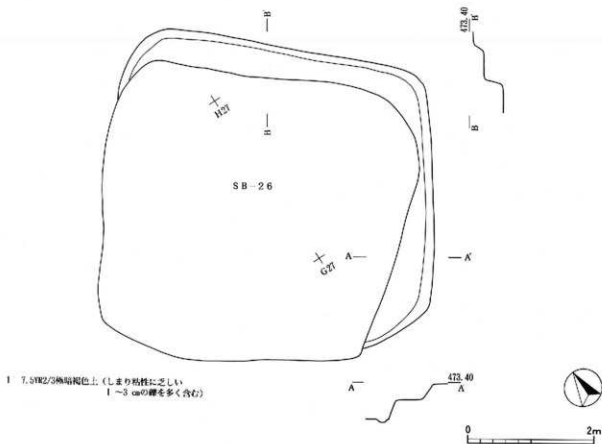
第32図 第21号住居址実測図



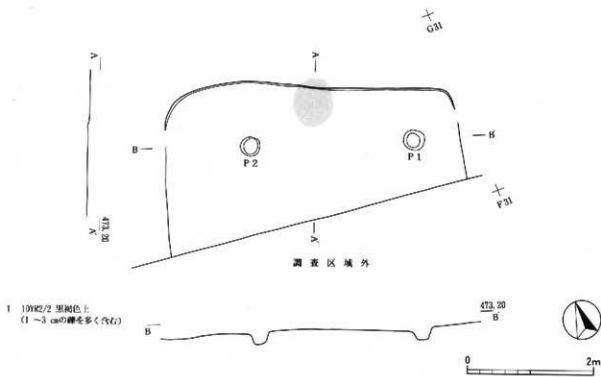
- 1 10YR2/2 黒褐色土 (1 ~ 3cmの層を多く含む)
- 2 7.5YR1/1 黒褐色砂礫土 (3 ~ 10cmの層を多く含む
SX-0 2 覆上)
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色土 (土まじり、粘性に乏しい
1 ~ 3cmの層を多く含む)



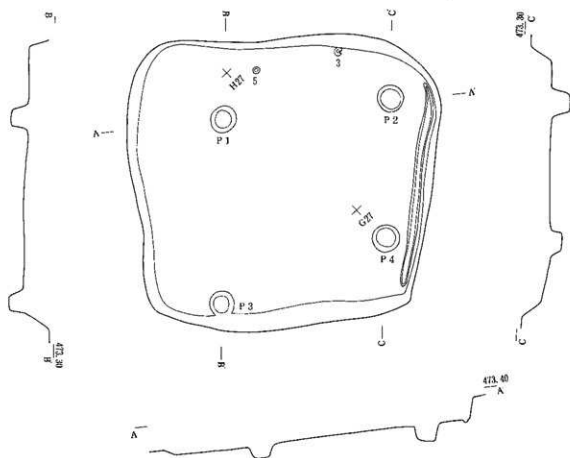
第33図 第22号住居実測図



第34図 第24号住居址実測図

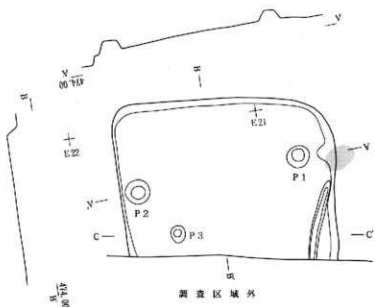


第35図 第25号住居址実測図

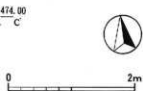


1 10PR2/2 黒褐色土 (1~3 cmの層を多く含む)

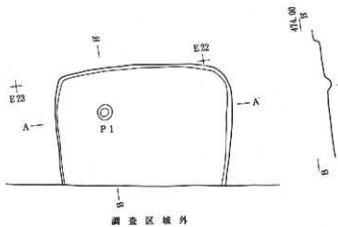
第36図 第26号住居址実測図



1 7.5%の黒褐色土(しまりなし 粘性に乏しい)



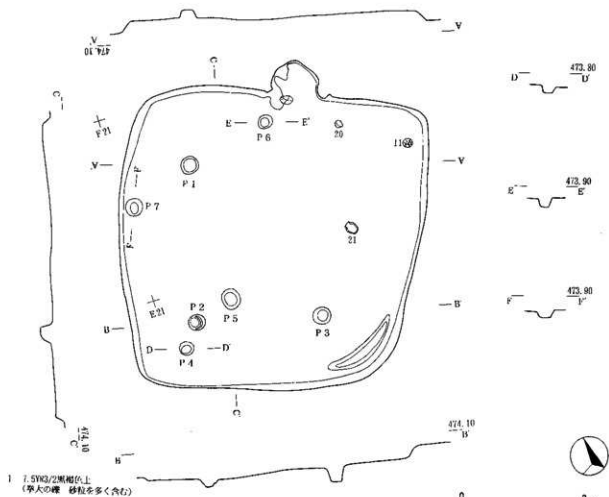
第37図 第27号住居址実測図



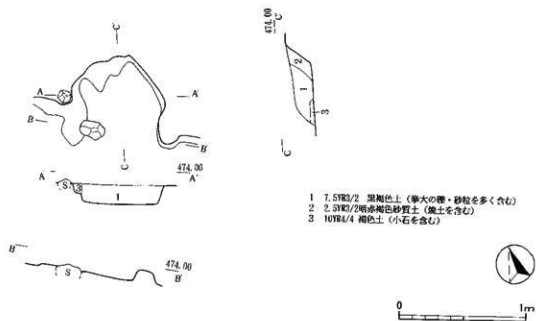
1 7.5%の黒褐色土(しまりなし 粘性に乏しい)



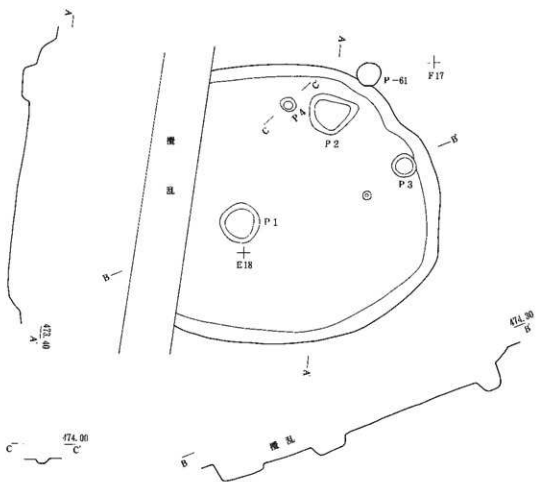
第38図 第28号住居址実測図



第39図 第29号住居址実測図



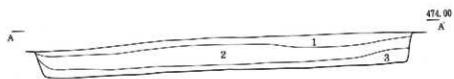
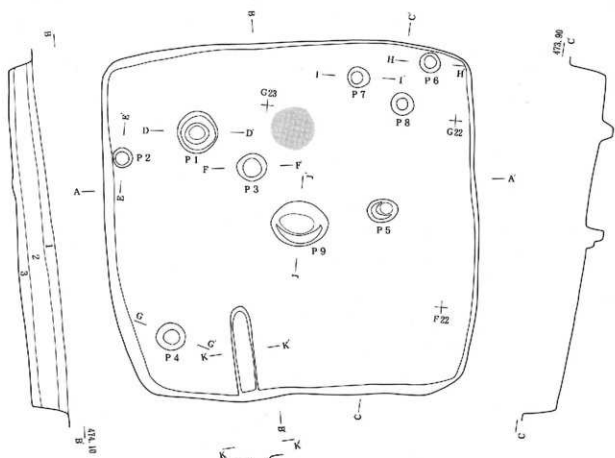
第40図 第29号住居址実測図



1 10YR2/2 黒褐色土（しまり粘性なし 3~5 cmの層を多く含む）



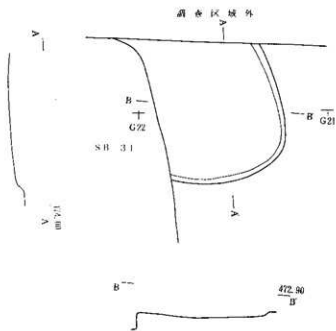
第41図 第30号住居址実測図



- 1 10YK3/2 黒褐色土 (華火の跡を含む)
- 2 10YK1, 7/1 黒色土 (華火の跡を多量に含む)
- 3 7.5YK2/2 黒褐色土 (華火の跡を含む)

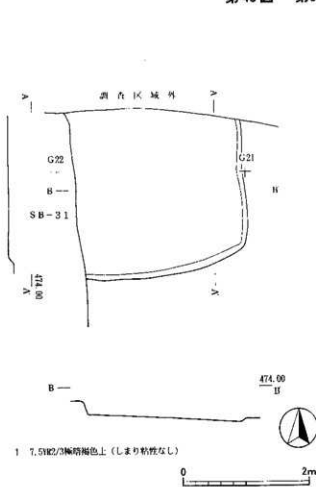


第 42 図 第31号住居址実測図



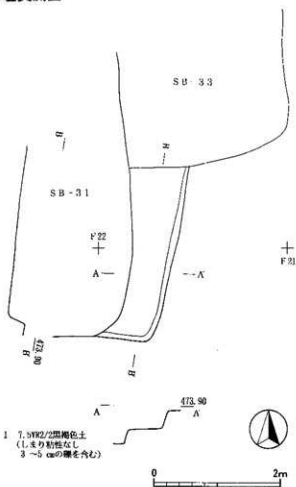
1 7.5W2/2黒褐色土(しまりなし 粘粒に乏しい)
3-5 cmの層を含む)

第43図 第32号住居址実測図



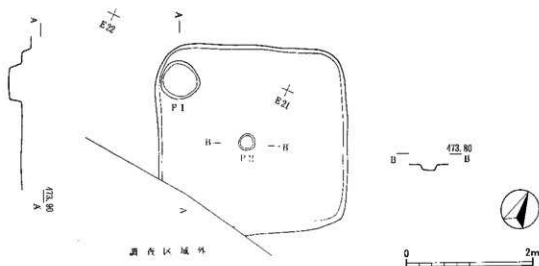
1 7.5W2/3黒褐色土(しまり粘粒なし)

第44図 第33号住居址実測図



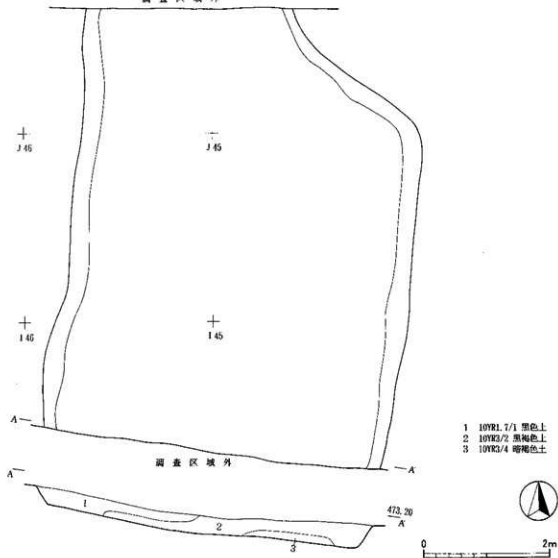
1 7.5W2/2黒褐色土
(しまり粘粒なし)
3-5 cmの層を含む)

第45図 第34号住居址実測図



1 7.5%K2 黒褐色土 (しまりなし 粘性に乏しい)

第46図 第35号住居址実測図
調査区域外



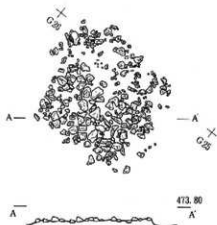
第47図 第1号溝状遺構実測図



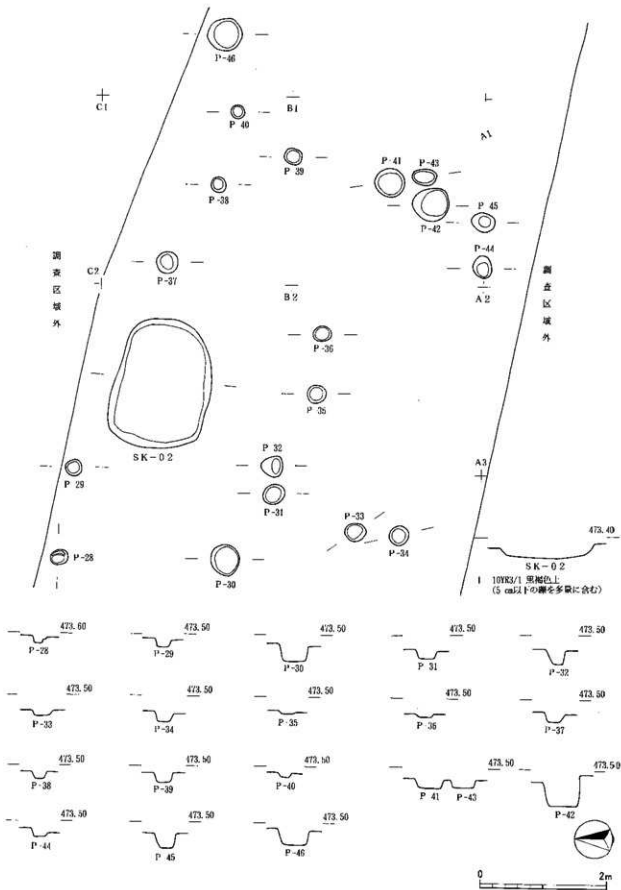
1 7.59kg/1黒褐色土 (砂礫土 しまり粘性なし
3~25cmの礫を多く含む)



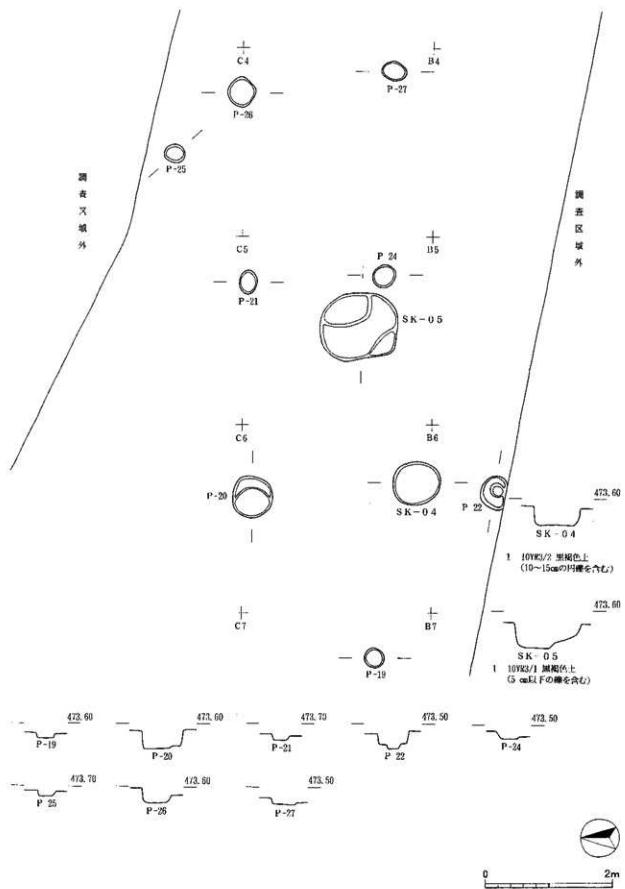
第48図 第1号集石遺構実測図



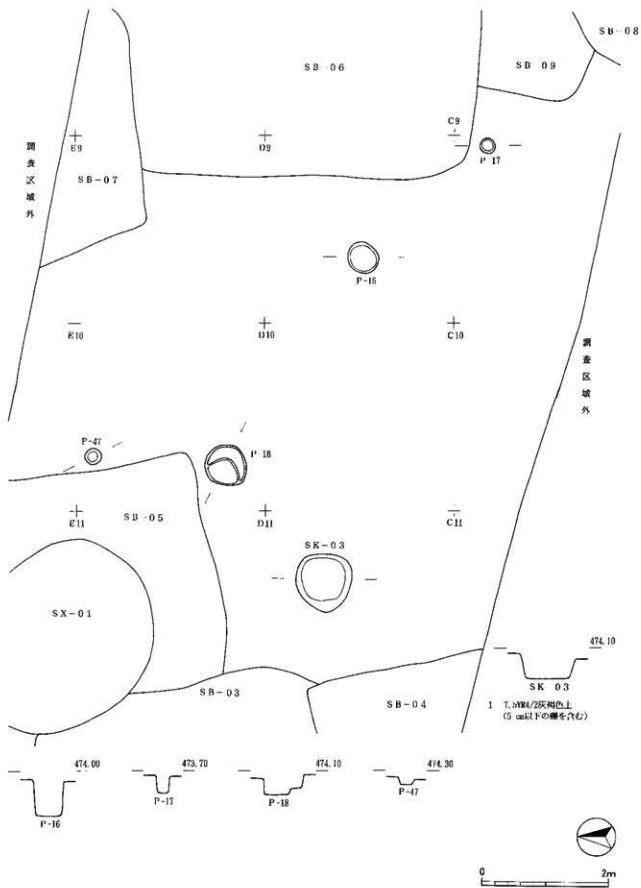
第49図 第2号集石遺構実測図



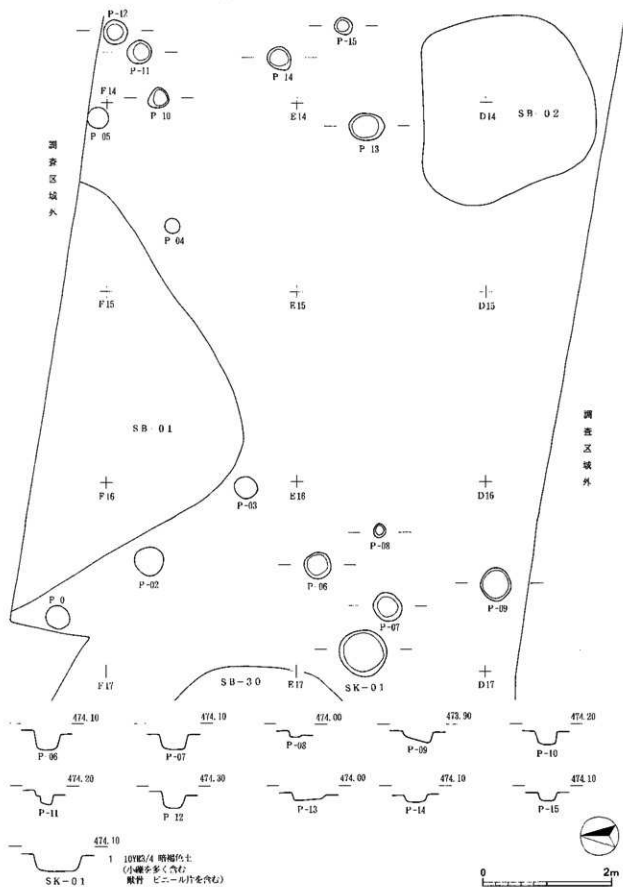
第50図 土坑・ピット実測図(1)



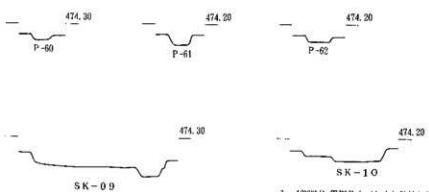
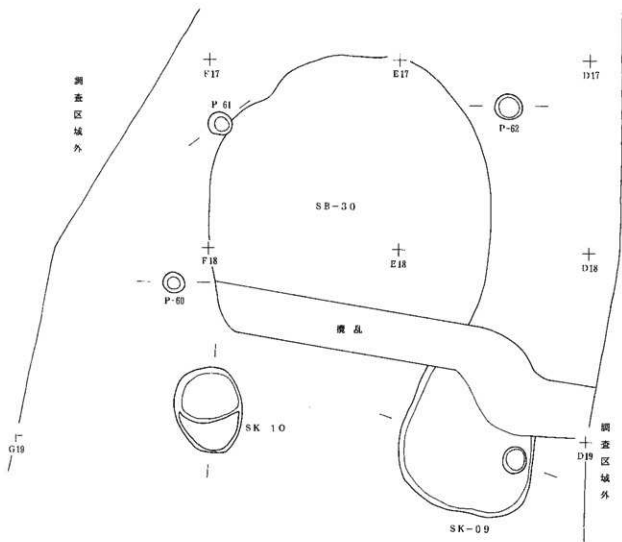
第51図 土坑・ピット実測図(2)



第52図 土坑・ピット実測図(3)



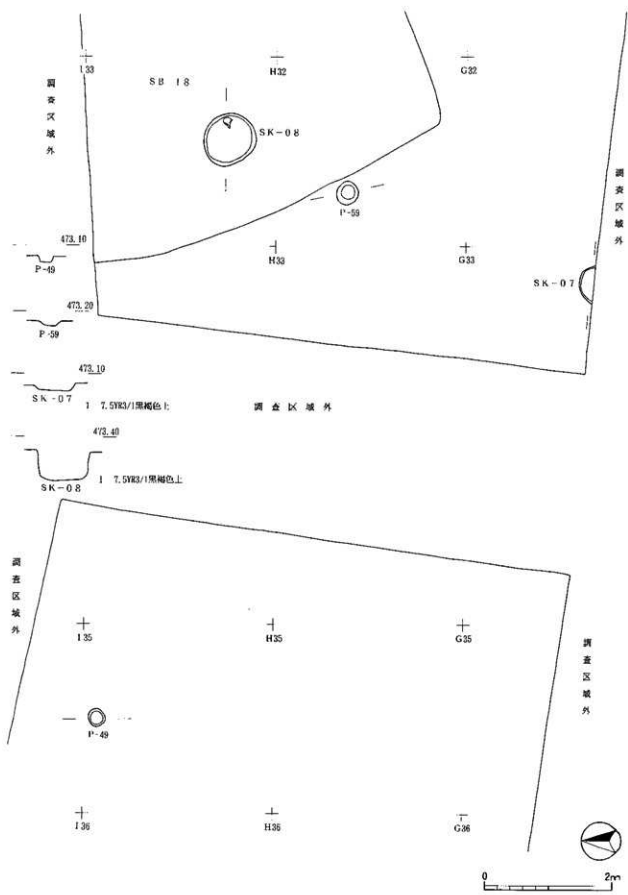
第53図 土坑・ピット実測図(4)



1 10YR2/3 黒褐色土 (しまり粘性なし 3~5cmの礫を多く含む)
 1 10YR3/1 黒褐色土 (しまり粘性なし 小礫を含む)



第54図 土坑・ピット実測図(5)



第56図 土坑・ピット実測図(7)

遺構番号	竪			穴			火			柱	穴	溝	その他の施設	所産期	備考
	平面形態	長	短	壁	高	主軸方向	位置	形態	全長						
SB-01	隅丸方形？	(3.36)	(3.28)	0.07~0.12	N-32°-W	不明	不明				11基 厚土穴5基		古墳時代後期		
SB-02	隅丸方形	2.80	2.78	0.14~0.35	N-14°-W	不明							古墳時代後期	火災住居	
SB-03	隅丸方形	4.76	4.34	0.04~0.40	N-7°-W	不明							古墳時代後期		
SB-04	隅丸長方形	(4.76)	(3.00)	0.20~0.43	N-78°-E	東壁中央部	石組粘土層	1.06	0.63				古墳時代後期		
SB-05	隅丸方形	6.34	4.26	0.22~0.47	N-5°-W	不明							古墳時代後期		
SB-06	隅丸方形	3.66	(1.62)	0.29~0.65	N-1°-W	北壁中央部	石組粘土層	1.15	0.62				古墳時代後期	火災住居	
SB-07	隅丸方形？	(4.92)	(3.75)	0.09~0.24	N-48°-W	不明							奈良時代		
SB-08	隅丸方形？	3.08	(2.25)	0.18~0.38	N-13°-E	不明							古墳時代後期		
SB-09	隅丸方形	(4.48)	(4.30)	0.21~0.28	N-28°-E	不明							古墳時代前期		
SB-11	隅丸方形？	(3.00)	(2.86)	0.14~0.15	N-45°-E	東壁中央部	石組粘土層	0.98	0.62			土坑1基	古墳時代後期		
SB-12	隅丸方形	3.44	3.14	0.04~0.09	N-68°-E	東壁中央部	石組粘土層	0.88	0.70				古墳時代後期		
SB-13	隅丸長方形	5.56	4.38	0.23~0.38	N-130°-E	東壁中央部	石組粘土層	0.63	0.48				古墳時代後期		
SB-14	隅丸方形？	6.04	(2.48)	0.03~0.10	N-8°-E	不明							古墳時代後期		
SB-15	隅丸方形	4.40	4.35	0.05~0.18	N-4°-W	不明							古墳時代後期		
SB-16	隅丸方形	4.66	4.46	0.11~0.25	N-21°-E	不明							古墳時代後期		
SB-17	隅丸長方形	(3.44)	3.02	0.00~0.02	N-1°-W	北壁中央部	石組粘土層？	0.50	0.46				古墳時代前期		
SB-18	隅丸長方形	(6.02)	5.00	0.17~0.55	N-24°-W	甲中央部	地床伊	0.42	0.34			土坑1基	弥生時代後期		
SB-20	隅丸方形？	(1.24)	(0.50)	0.10~0.11	N-68°-W	不明							古墳時代中期		
SB-21	隅丸長方形？	(2.86)	(2.25)	0.08~0.24	N-11°-E	不明							古墳時代後期		
SB-22	隅丸方形	3.68	3.60	0.14~0.41	N-10°-E	不明							古墳時代後期		
SB-23	隅丸方形？	(3.00)	(0.88)	0.24~0.25	N-47°-W	不明							古墳時代前期		
SB-24	隅丸方形	(5.00)	(4.64)	0.11~0.25	N-30°-E	不明							古墳時代中期		
SB-25	隅丸方形？	(4.78)	(2.84)	0.00~0.40	N-21°-E	北壁中央部	層・地上のみ						古墳時代前期		
SB-26	隅丸方形	4.98	4.70	0.20~0.36	N-41°-W	不明							古墳時代後期		
SB-27	隅丸方形？	3.50	(2.68)	0.15~0.17	N-5°-E	東壁北寄り	層・地上のみ						平安時代後期		
SB-28	隅丸方形？	2.80	(1.94)	0.03~0.09	N-10°-E	不明							不明		
SB-29	隅丸方形	4.82	4.82	0.11~0.25	N-25°-E	北壁中央部	石組粘土層						奈良時代		
SB-30	略円形	(4.88)	4.46	0.07~0.29	不明	不明							平安時代前期		
SB-31	隅丸方形	5.94	5.60	0.38~0.62	N-7°-W	北壁中央部	地床伊	0.70	0.62				古墳時代中期		
SB-32	隅丸方形？	(2.42)	(2.20)	0.22~0.33	N-15°-W	不明							古墳時代		
SB-33	隅丸方形？	(2.74)	(2.60)	0.07~0.35	N-5°-W	不明							古墳時代		
SB-34	隅丸方形？	(2.88)	(1.04)	0.30~0.31	N-18°-E	不明							古墳時代		
SB-35	隅丸方形	2.98	2.70	0.10~0.30	N-25°-W	不明							古墳時代後期		

第3表 壑穴住居址一覽表

遺構番号	平面形	断面形	規模 (m)			長軸方向	出土遺物	所産期	備考
			長径	短径	深さ				
SK-01	円形	鍋底状	0.76	0.72	0.27		土師器・ビニール袋	現代	
SK-02	楕円形	鍋底状	2.08	1.50	0.24	N-77° -W	弥生土器・土師器 骨片	古墳時代	
SK-03	略円形	壘状	0.92	0.90	0.40		弥生土器・土師器 骨片	古墳時代	
SK-04	円形	壘状	0.76	0.70	0.29		土師器	古墳時代	
SK-05	楕円形	鍋底状	1.26	1.04	0.41	N-10° -W	土師器	古墳時代	
SK-06	円形	壘状	3.02	2.92	0.30		弥生土器・土師器	古墳時代	
SK-07	円形	壘状	0.60	(0.28)	0.14		土師器・骨片	古墳時代	
SK-08	円形	鍋底状	0.86	0.78	0.48		土師器	古墳時代中期	
SK-09	楕円形	壘状	(2.06)	2.24	0.12	N-74° W		不明	
SK-10	楕円形	壘状	1.34	1.06	0.22	N-78° -E		不明	

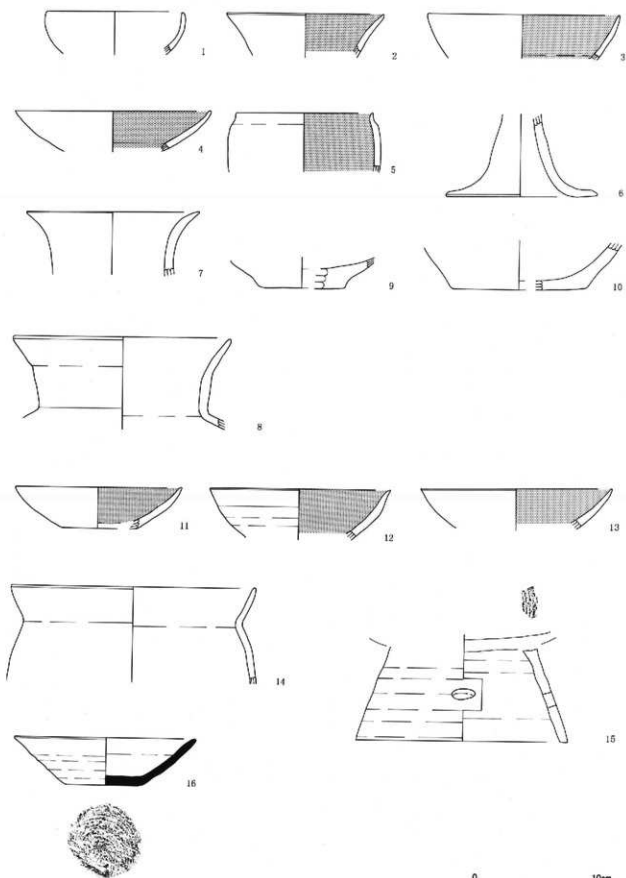
第4表 土坑一覧表

遺構番号	平面形	断面形	規模 (m)			長軸方向	出土遺物	所産期	備考
			長径	短径	深さ				
SX-01	楕円形	—	3.10	2.62	0.24	N-44° -W	土師器・須恵器・土 製品・鹿角・骨片	奈良時代	
SX-02	円形	—	2.50	2.06	0.08		弥生土器・土師器	古墳時代	

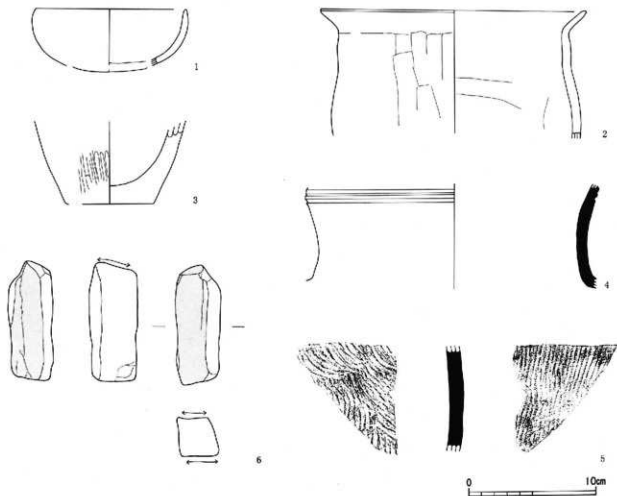
第5表 集石遺構一覧表

遺構番号	平面形	規 模 (m)			覆 土		出土遺物	備 考
		長 径	短 径	深 さ				
P-01	円形	0.38	0.35	0.20	7.5YR3/2	黒褐色土	土師器	SB-01の屋外柱穴?
P-02	円形	0.47	0.46	0.15	7.5YR3/4	暗褐色土	土師器	SB-01の屋外柱穴?
P-03	円形	0.34	0.34	0.11	7.5YR3/4	暗褐色土	無	SB-02の屋外柱穴?
P-04	円形	0.25	0.23	0.05	7.5YR3/3	暗褐色土	無	SB-03の屋外柱穴?
P-05	円形	0.31	0.29	0.18	7.5YR3/4	暗褐色土	無	SB-04の屋外柱穴?
P-06	円形	0.42	0.42	0.33	7.5YR3/2	黒褐色土	無	
P-07	円形	0.46	0.42	0.25	7.5YR4/3	褐色土	無	
P-08	円形	0.22	0.18	0.10	7.5YR3/3	暗褐色土	須恵器	
P-09	円形	0.54	0.48	0.20	7.5YR3/2	黒褐色土	無	
P-10	略円形	0.34	0.34	0.25	10YR3/2	黒褐色土	土師器	
P-11	円形	0.38	0.36	0.24	10YR3/2	黒褐色土	無	2段に掘り込む
P-12	円形	0.40	0.38	0.26	10YR3/3	暗褐色土	土師器・黒耀石・骨	
P-13	楕円系	0.56	0.44	0.13	7.5YR3/4	暗褐色土	土師器	
P-14	略円形	0.40	0.34	0.13	10YR2/3	黒褐色土	無	2段に掘り込む
P-15	円形	0.30	0.25	0.14	10YR3/3	暗褐色土	土師器	
P-16	円形	0.52	0.46	0.60	10YR4/2	灰黄褐色土	土師器	
P-17	円形	0.26	0.24	0.29	10YR2/3	黒褐色土	無	
P-18	円形	0.70	0.64	0.33	7.5YR2/2	黒褐色土	無	
P-19	円形	0.32	0.30	0.09	7.5YR4/3	褐色土	無	
P-20	円形	0.68	0.62	0.32	10YR3/3	暗褐色土	土師器・黒耀石	
P-21	楕円系	0.38	0.28	0.08	10YR4/3	にぶい黄褐色土	無	
P-22	略円形	0.54	0.34	0.28	10YR3/3	暗褐色土	無	
P-24	円形	0.36	0.36	0.12	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-25	楕円系	0.33	0.27	0.12	10YR3/3	暗褐色土	無	
P-26	円形	0.48	0.46	0.26	10YR2/3	黒褐色土	土師器	
P-27	楕円系	0.38	0.30	0.10	10YR2/2	黒褐色土	無	
P-28	円形	0.28	0.24	0.16	10YR3/3	暗褐色土	無	2段に掘り込む
P-29	円形	0.26	0.26	0.14	10YR3/4	暗褐色土	無	
P-30	円形	0.50	0.46	0.30	10YR3/2	黒褐色土	土師器	
P-31	円形	0.36	0.33	0.14	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-32	略円形	0.34	0.30	0.26	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-33	円形	0.32	0.28	0.11	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-34	円形	0.32	0.30	0.15	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-35	円形	0.30	0.30	0.14	10YR3/3	暗褐色土	無	
P-36	円形	0.28	0.26	0.06	10YR3/3	暗褐色土	無	
P-37	円形	0.35	0.33	0.15	10YR2/3	黒褐色土	無	
P-38	円形	0.25	0.20	0.11	10YR2/3	黒褐色土	無	
P-39	円形	0.28	0.26	0.15	10YR2/3	黒褐色土	土師器	
P-40	円形	0.22	0.22	0.06	10YR2/2	黒褐色土	無	
P-41	円形	0.47	0.46	0.16	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-42	円形	0.58	0.52	0.50	10YR2/2	黒褐色土	土師器	
P-43	楕円系	0.40	0.26	0.16	10YR2/3	黒褐色土	無	
P-44	円形	0.36	0.30	0.17	10YR2/3	黒褐色土	土師器	
P-45	円形	0.36	0.32	0.26	10YR2/3	黒褐色土	無	
P-46	円形	0.57	0.57	0.25	10YR2/2	黒褐色土	土師器	
P-47	円形	0.26	0.24	0.12	10YR2/3	黒褐色土	無	
P-49	円形	0.28	0.26	0.09	7.5YR3/3	暗褐色土	無	
P-51	円形	0.50		0.09	7.5YR2/2	黒褐色土	無	北半は調査区域外
P-52	略円形	0.43	0.38	0.21	7.5YR3/2	黒褐色土	無	
P-53	円形	0.28	0.28	0.14	7.5YR2/2	黒褐色土	無	
P-54	楕円系	0.52	0.48	0.32	10YR2/3	黒褐色土	土師器	2段に掘り込む
P-55	楕円系	0.50	0.42	0.30	7.5YR2/1	黒色土	無	
P-56	楕円系	0.58	0.53	0.25	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-57	楕円系	0.64	0.59	0.16	7.5YR2/1	黒色土	無	
P-59	円形	0.36	0.32	0.10	7.5YR3/3	暗褐色土	無	
P-60	円形	0.34	0.34	0.09	10YR2/3	黒褐色土	無	
P-61	円形	0.38	0.37	0.17	10YR3/2	黒褐色土	無	
P-62	円形	0.44	0.4	0.11	7.5YR3/3	暗褐色土	無	
P-63	円形	0.3	0.28	0.08	10YR3/2	黒褐色土	無	

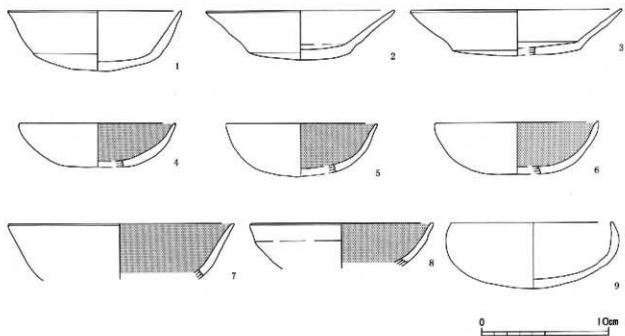
第6表 ビット一覧表



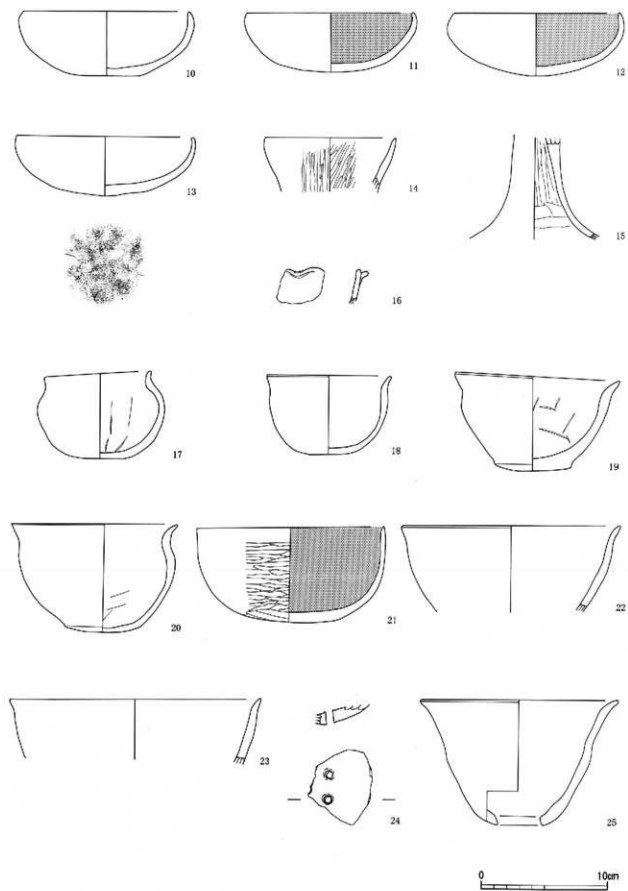
第57图 第1号住居址出土遗物实测图



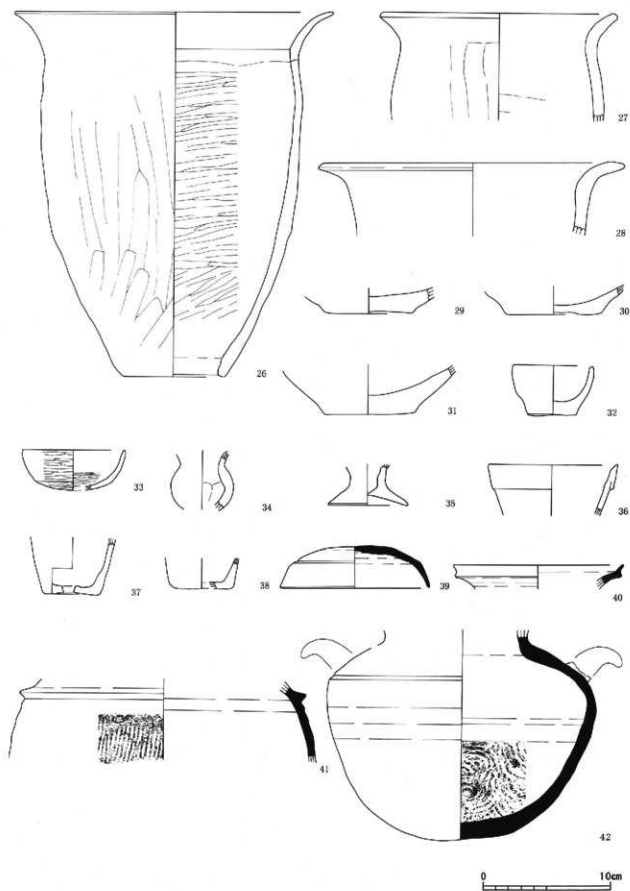
第58图 第2号住居址出土遗物实测图



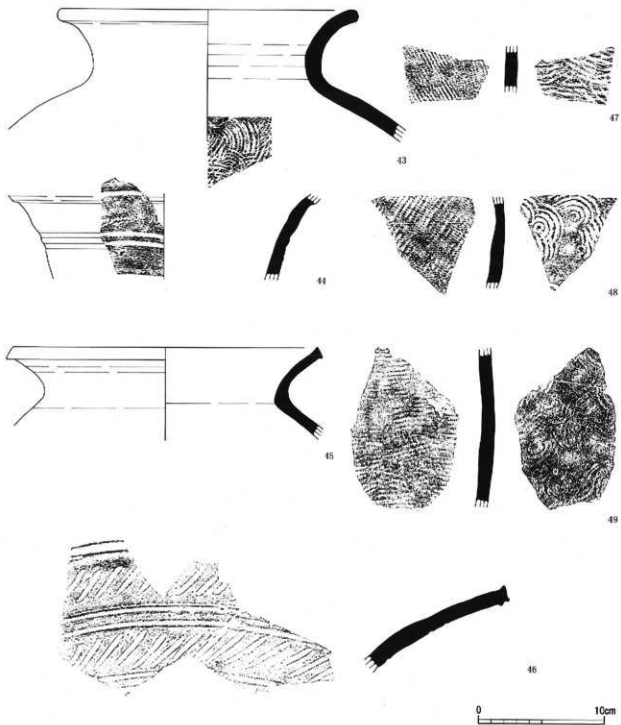
第59图 第3号住居址出土遗物实测图(1)



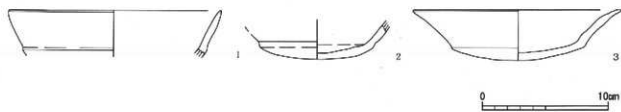
第60图 第3号住居址出土遗物实测图(2)



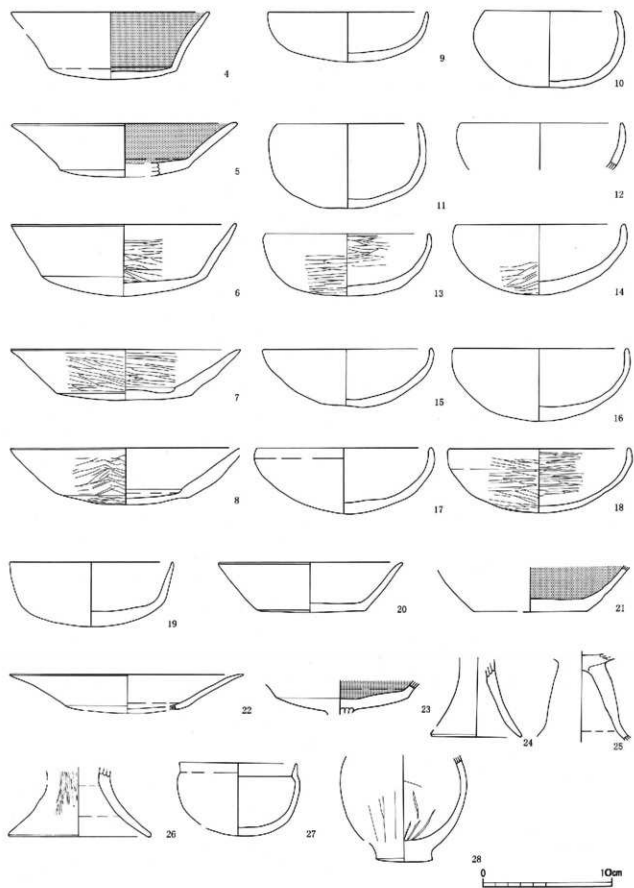
第61图 第3号住居址出土遗物实测图(3)



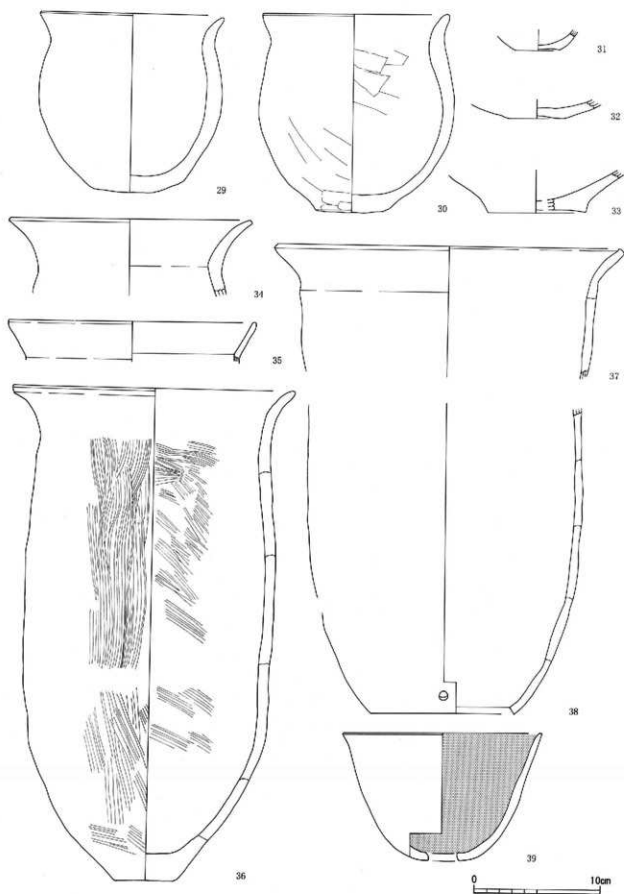
第62图 第3号住居址出土遗物实测图(4)



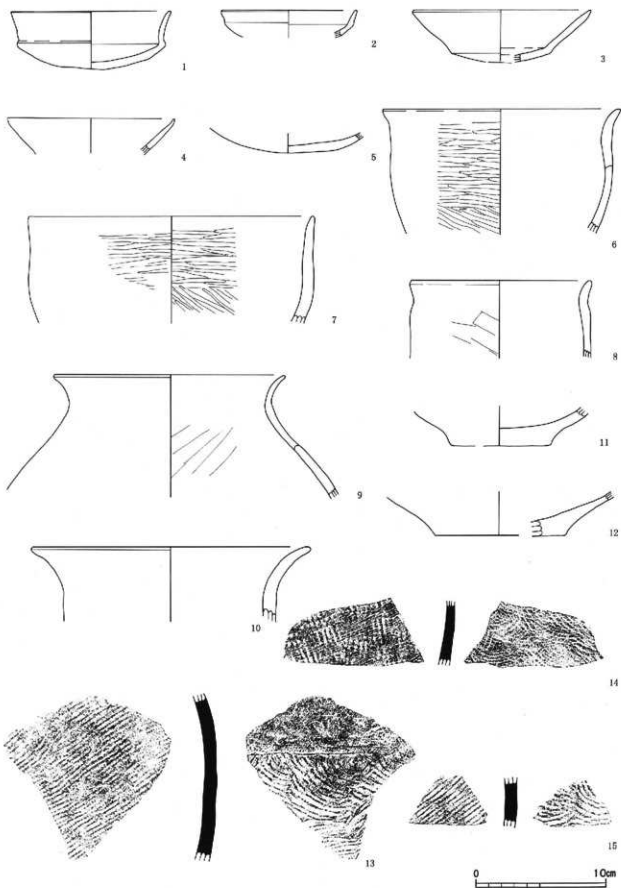
第63图 第4号住居址出土遗物实测图(1)



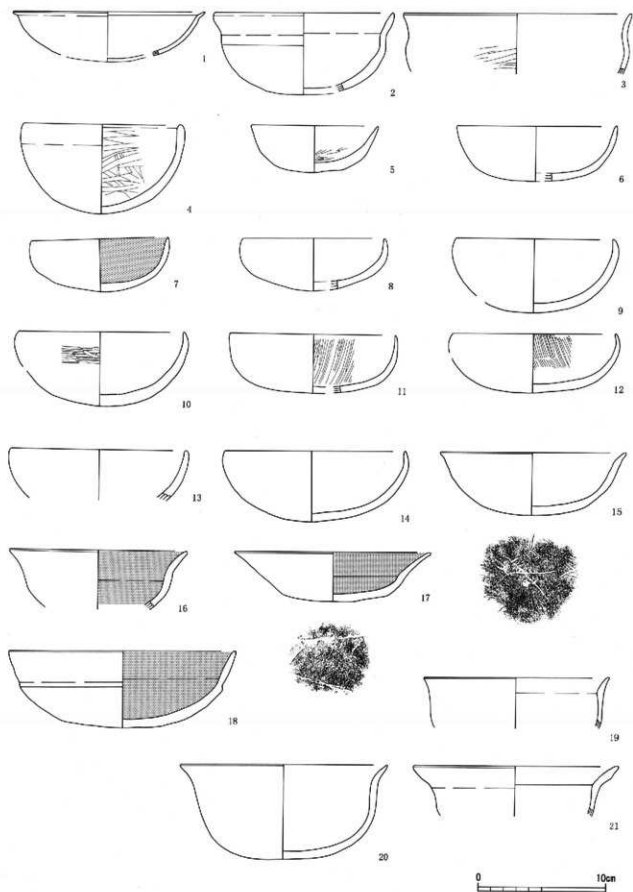
第64图 第4号住居址出土遗物实测图(2)



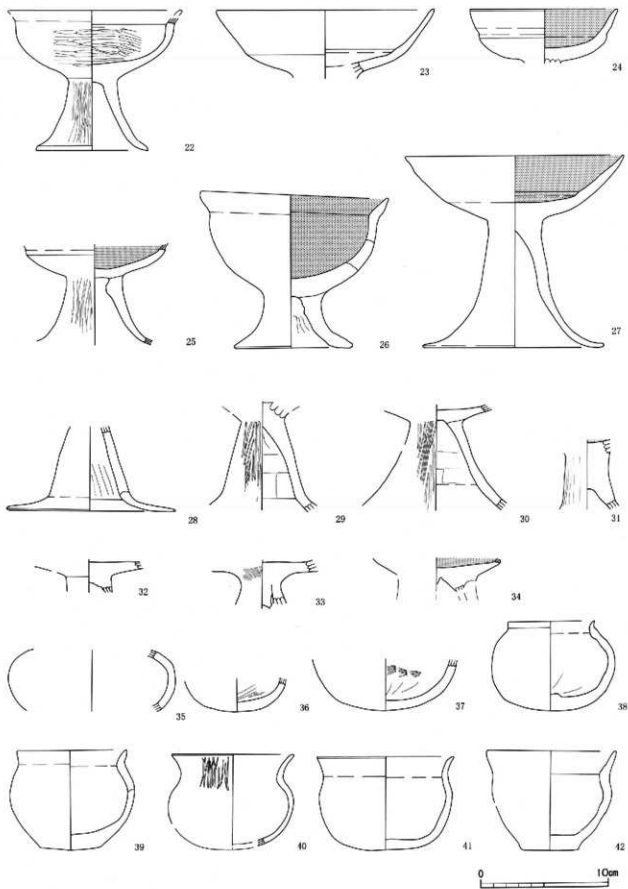
第65图 第4号住居址出土遗物实测图(3)



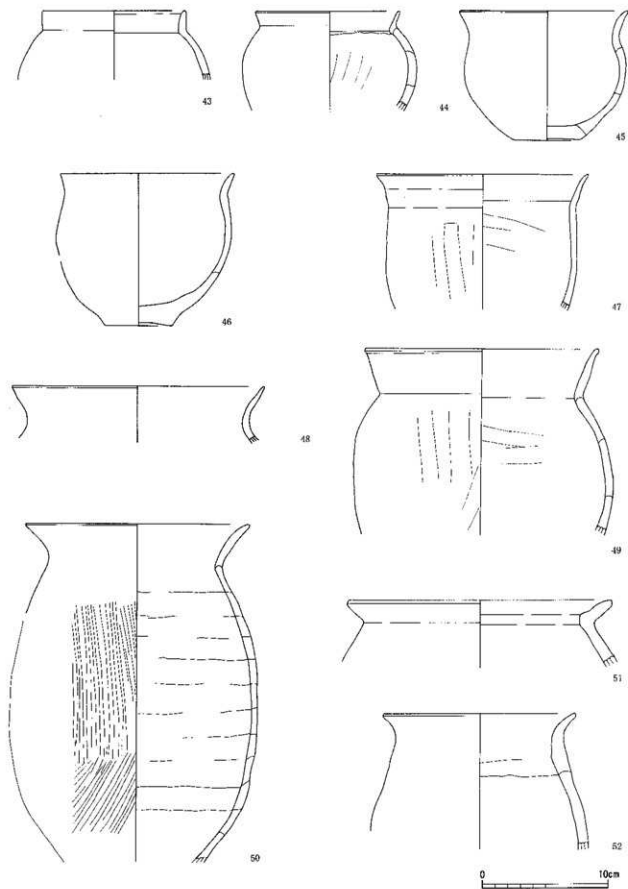
第66图 第5号住居址出土文物实测图



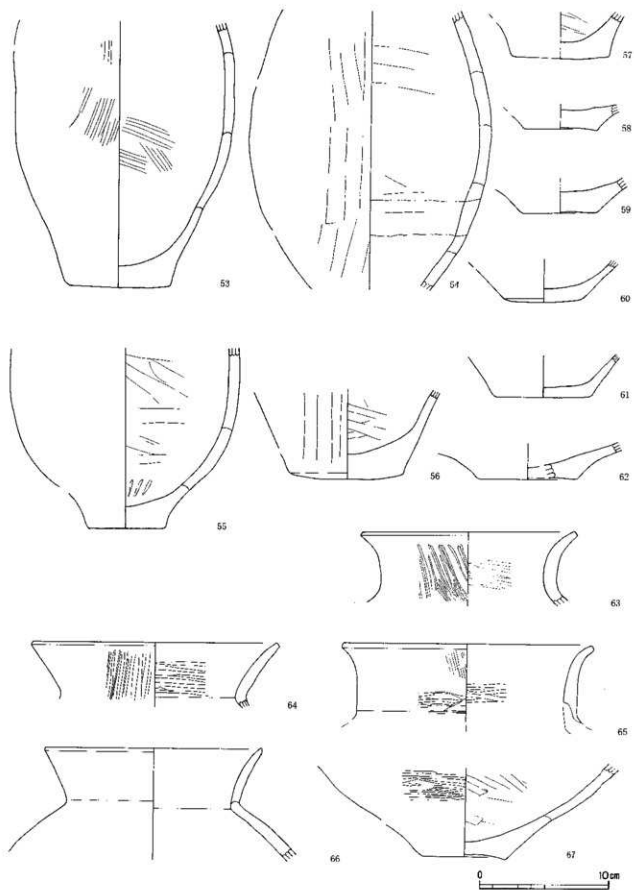
第67图 第6号住居址出土遗物实测图(1)



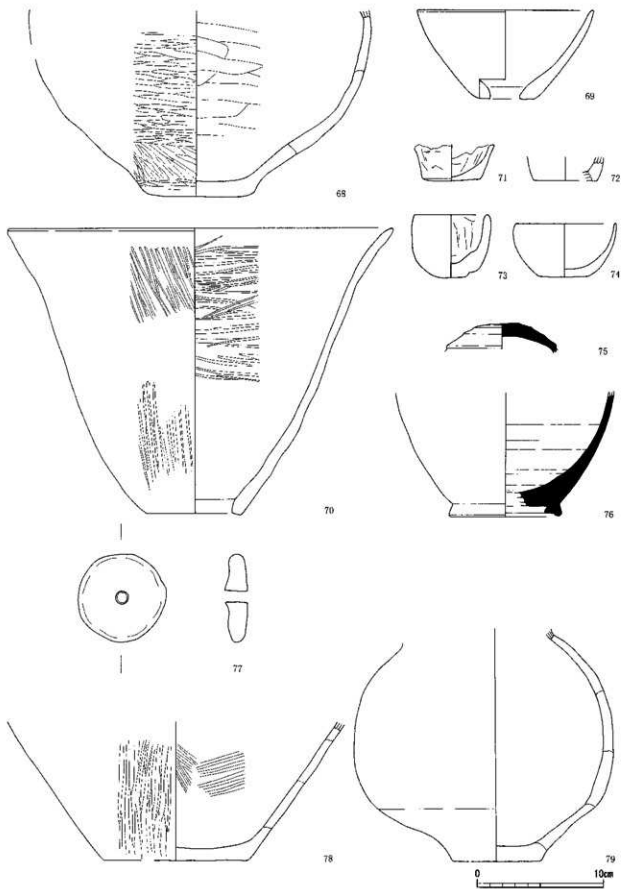
第68图 第6号住居址出土遺物実測図(2)



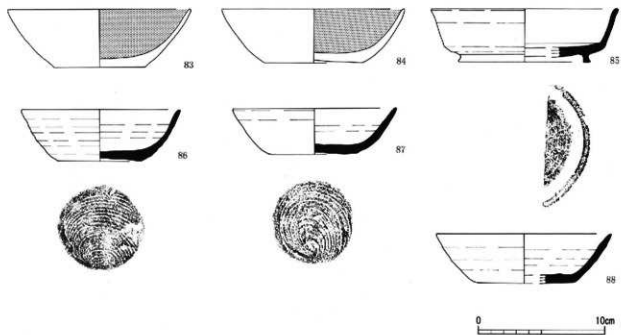
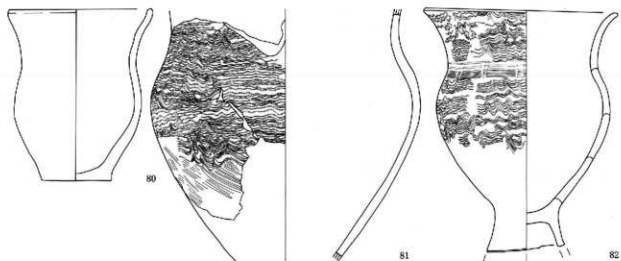
第 69 图 第 6 号住居址出土遺物実測图 (3)



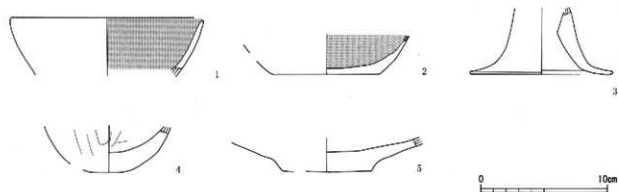
第70图 第6号住居址出土遗物实测图(4)



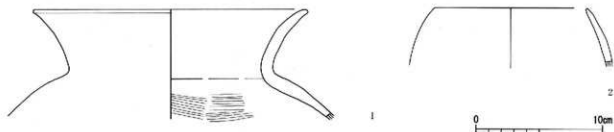
第71图 第6号住居址出土遗物实测图(5)



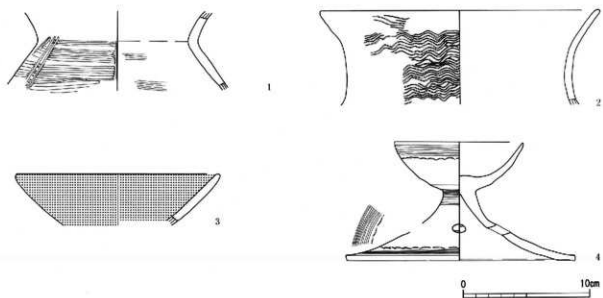
第72图 第6号住居址出土遺物実測図(6)



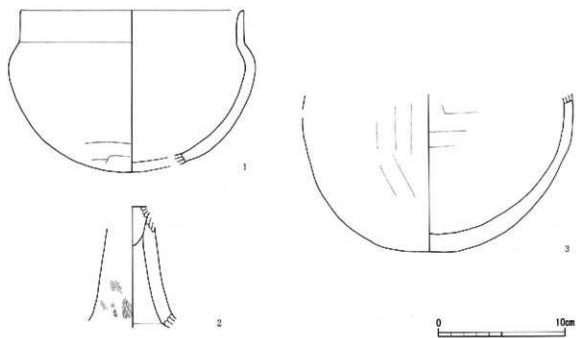
第73图 第7号住居址出土遺物実測図



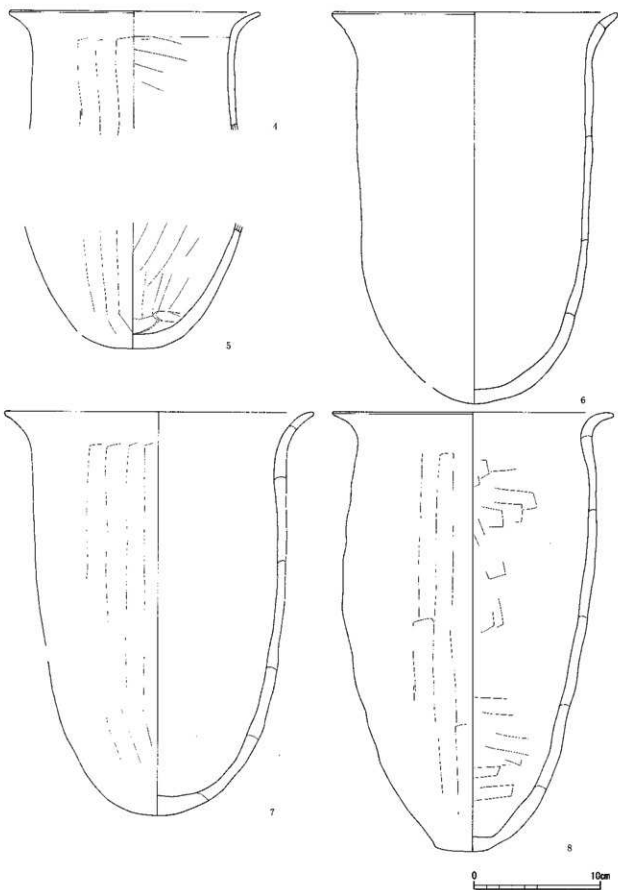
第74图 第8号住居址出土遗物实测图



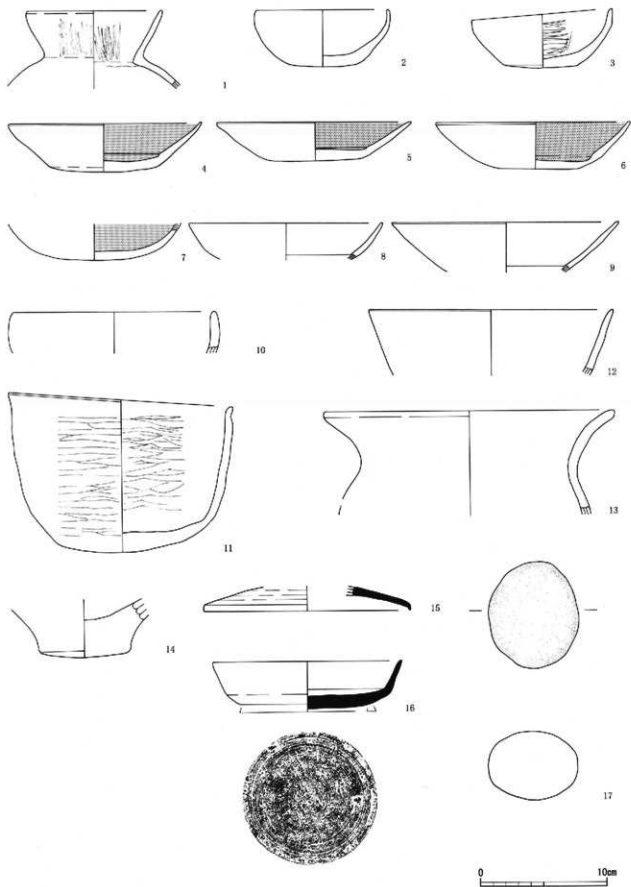
第75图 第10号住居址出土遗物实测图



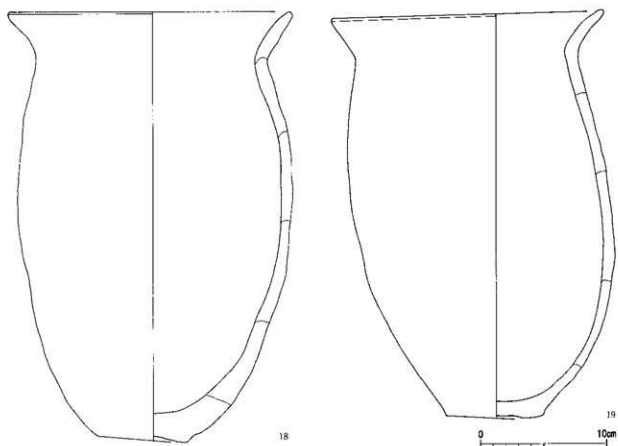
第76图 第11号住居址出土遗物实测图(1)



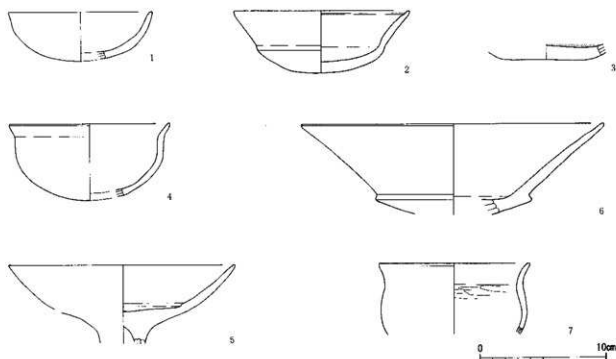
第77圖 第11号住居址出土遺物実測図(2)



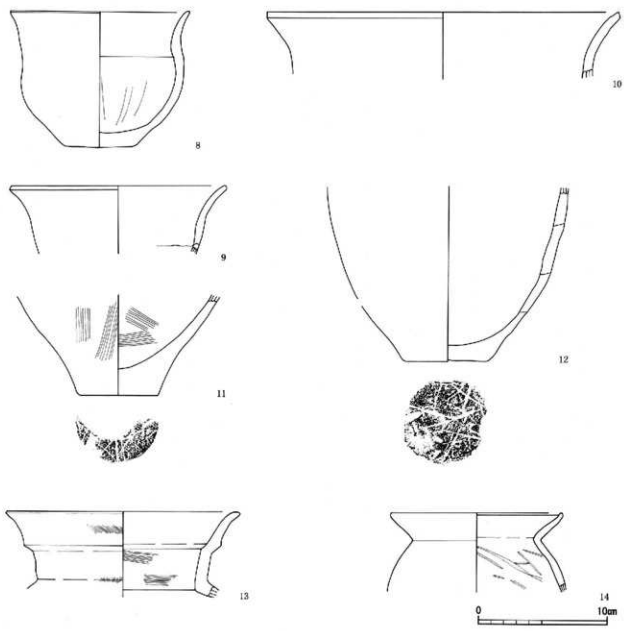
第78图 第12号住居址出土遗物实测图(1)



第79图 第12号住居址出土遺物実測図(2)



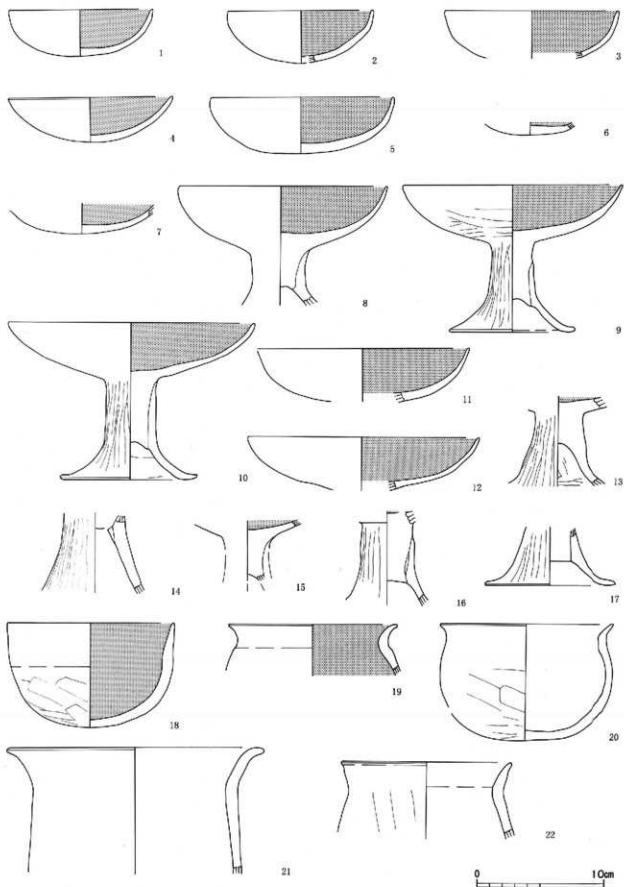
第80图 第13号住居址出土遺物実測図(1)



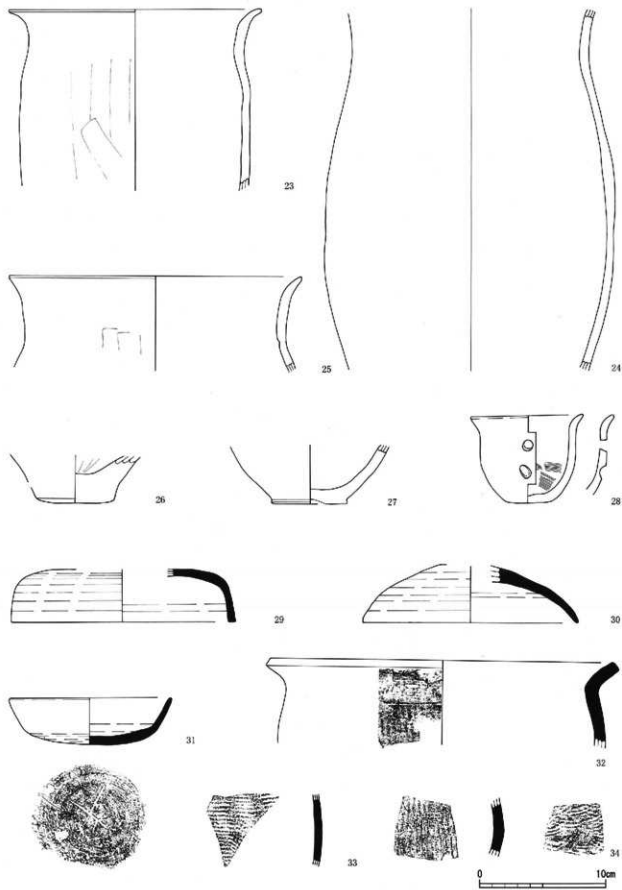
第81图 第13号住居址出土遗物实测图(2)



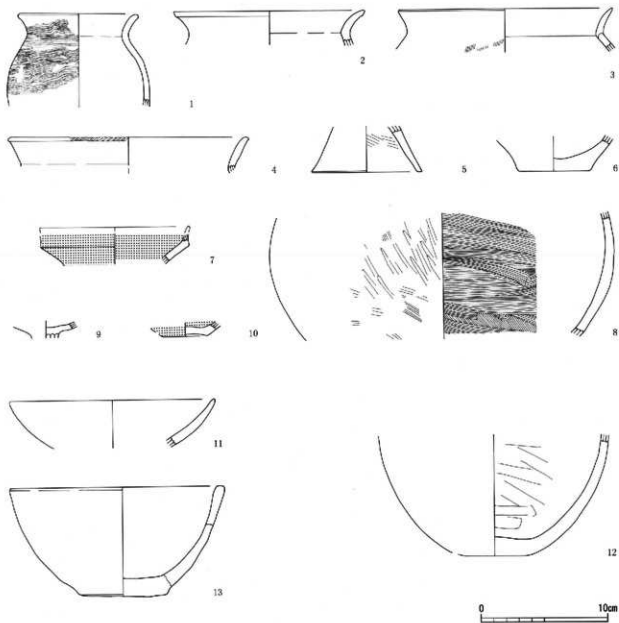
第82图 第14号住居址出土遗物实测图



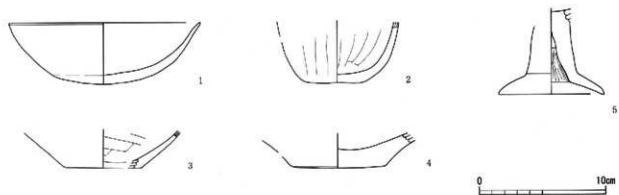
第 83 图 第 15 号住居址出土遺物実測図 (1)



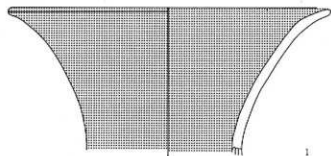
第84图 第15号住居址出土物实测图(2)



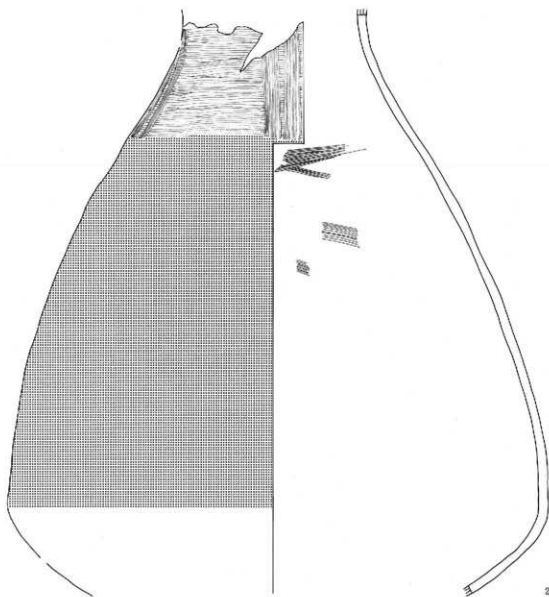
第85图 第16号住居址出土遗物实测图



第86图 第17号住居址出土遗物实测图



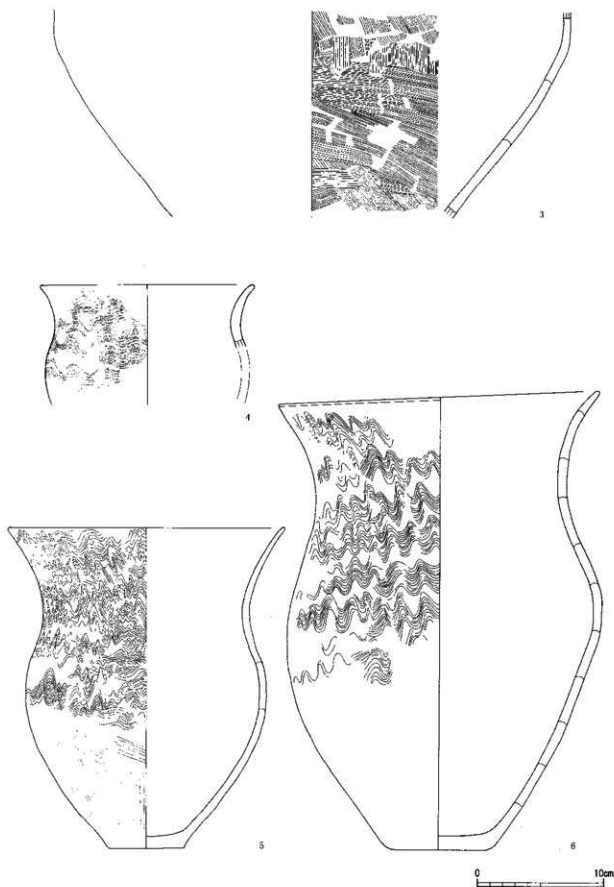
1



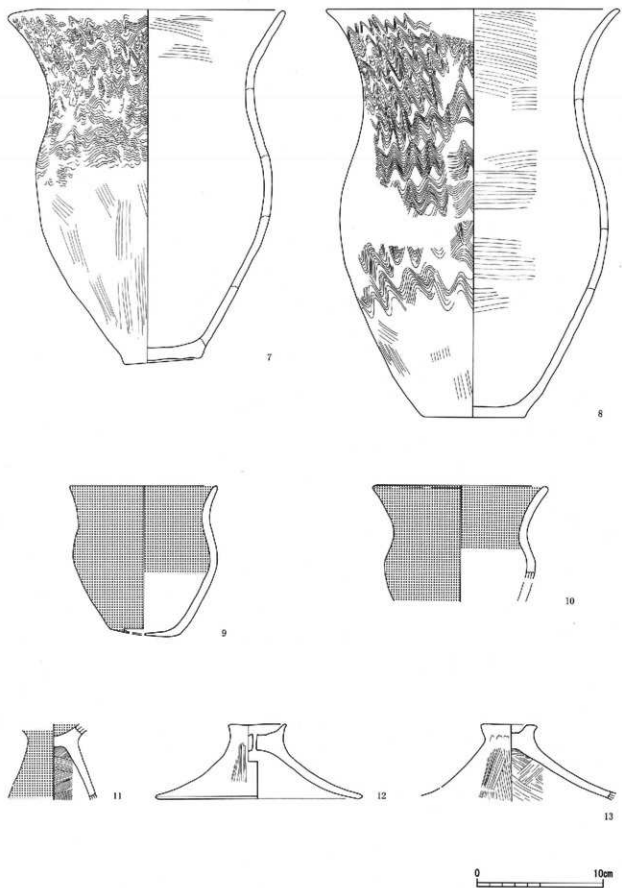
2



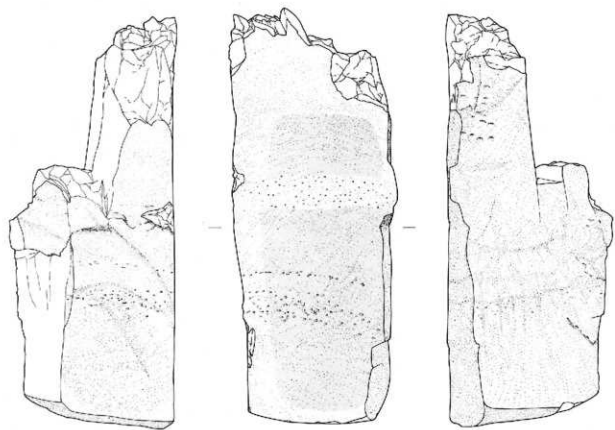
第 87 图 第 18 号住居址出土遺物実測図(1)



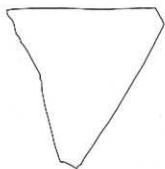
第88图 第18号住居址出土遗物实测图(2)



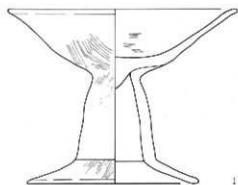
第89图 第18号住居址出土遺物实测图(3)



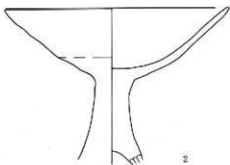
14



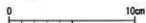
第90图 第18号住居址出土遺物実測図(4)



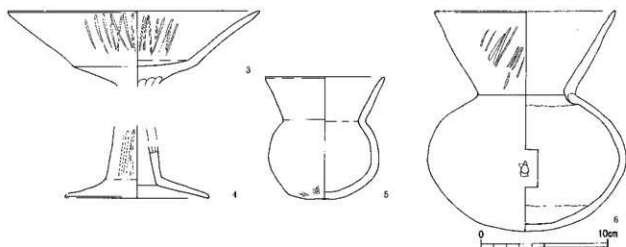
1



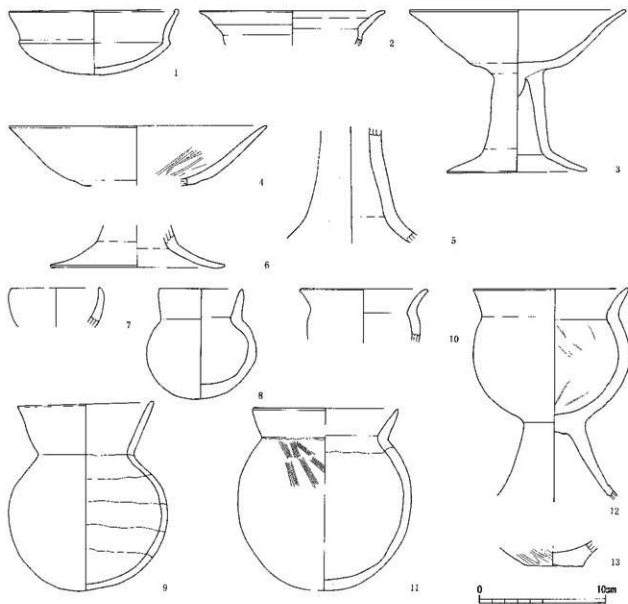
2



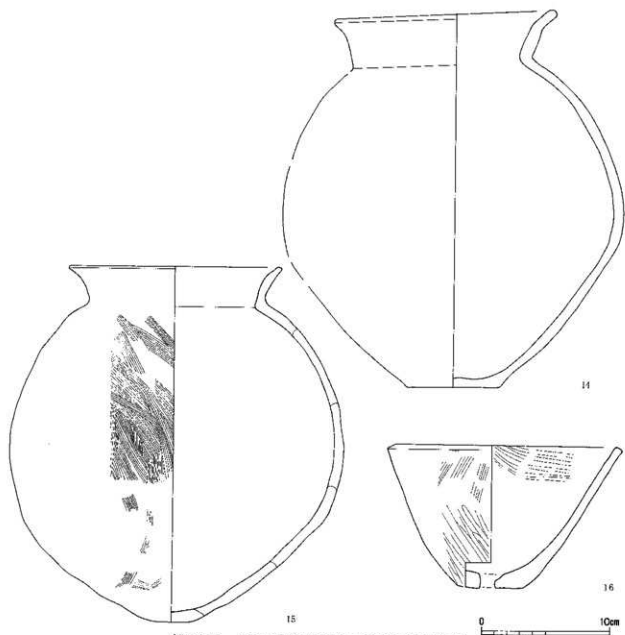
第91图 第20号住居址出土遺物実測図(1)



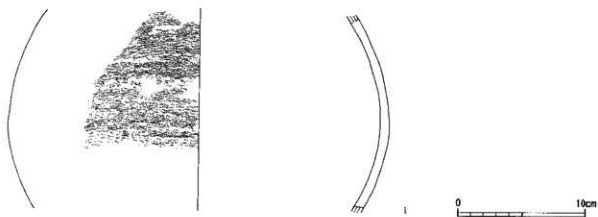
第92图 第20号住居址出土物实测图(2)



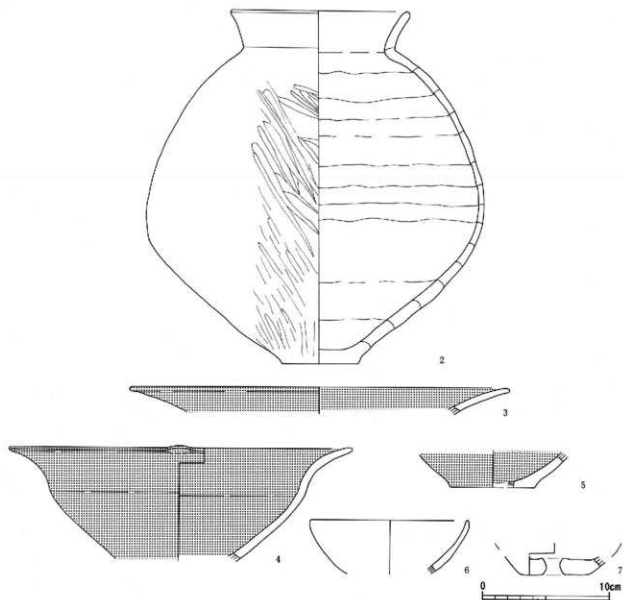
第93图 第21号住居址出土物实测图(1)



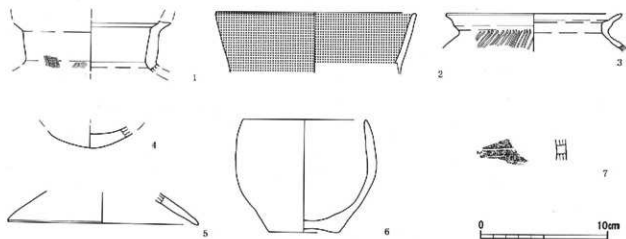
第94图 第21号住居址出土遺物実測図(2)



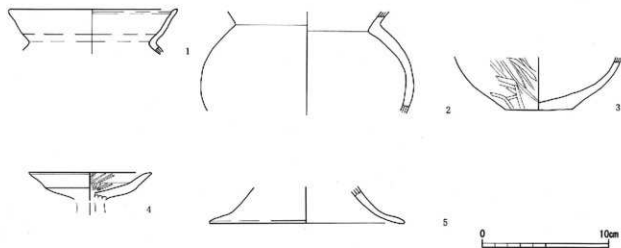
第95图 第22号住居址出土遺物実測図(1)



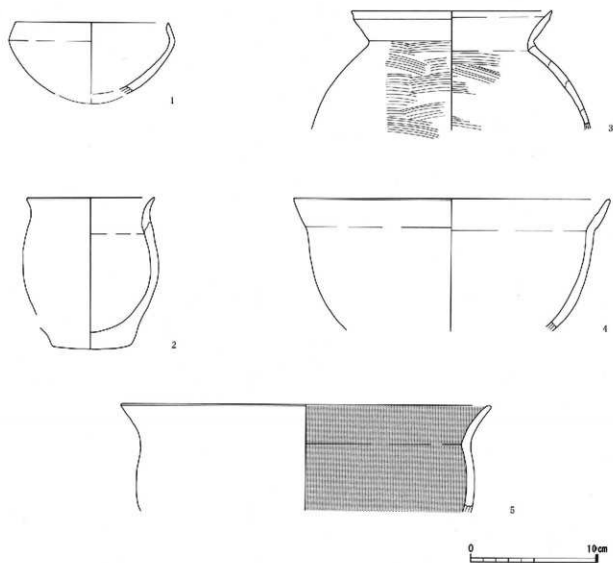
第96图 第22号住居址出土遺物实测图(2)



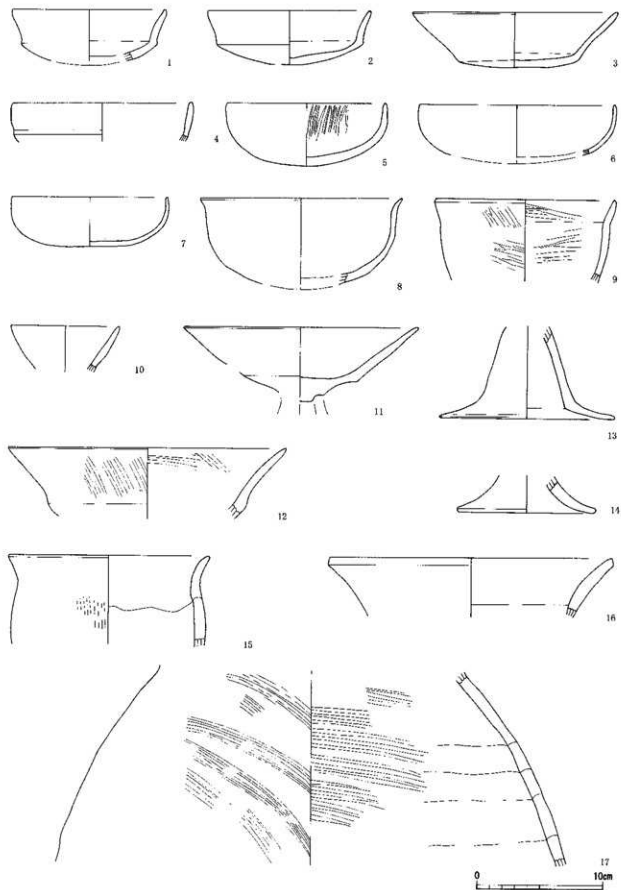
第97图 第23号住居址出土遺物实测图



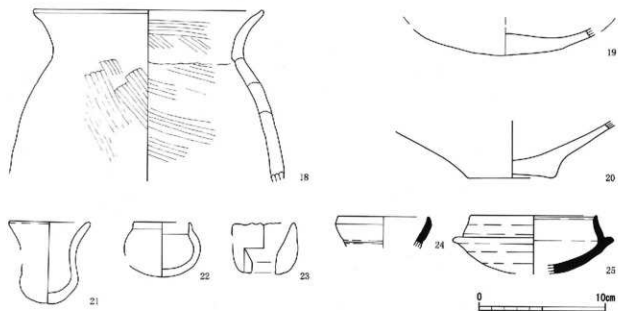
第98图 第24号住居址出土遗物实测图



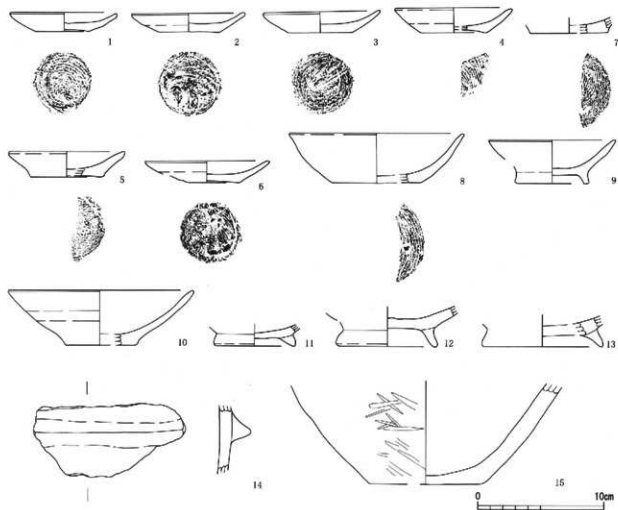
第99图 第25号住居址出土遗物实测图



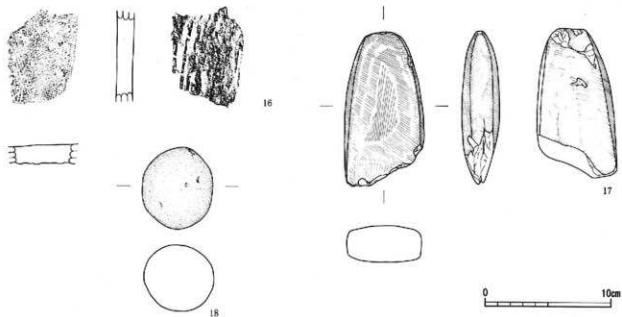
第100图 第26号住居址出土遗物实测图(1)



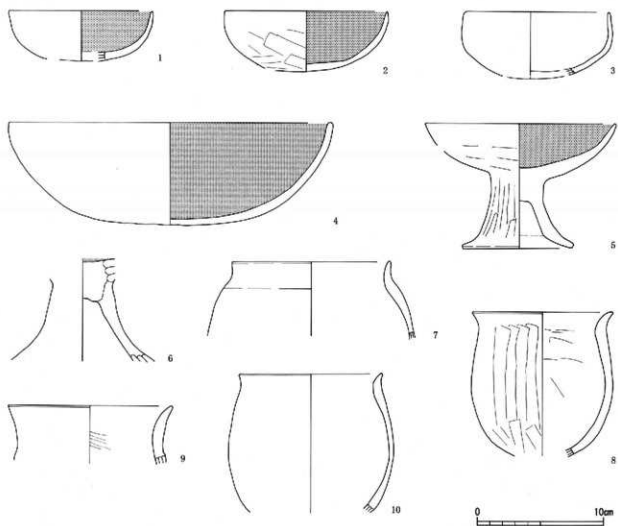
第101图 第26号住居址出土遺物実測図(2)



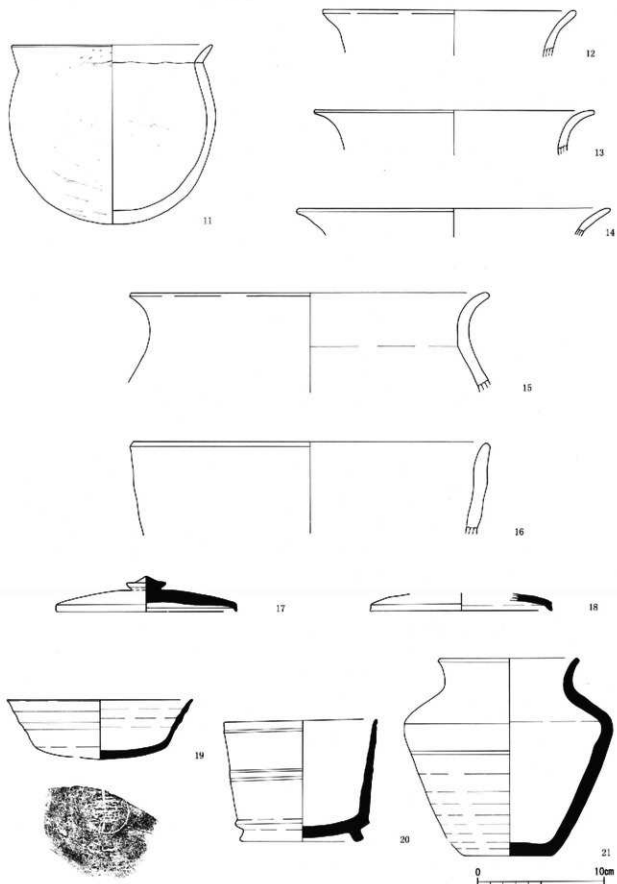
第102图 第27号住居址出土遺物実測図(1)



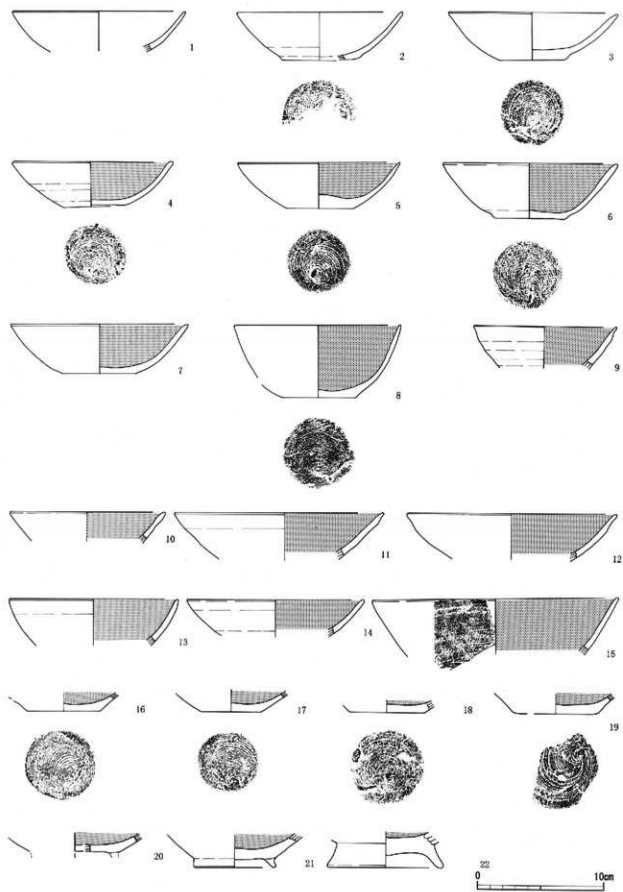
第103图 第27号住居址出土遗物实测图(2)



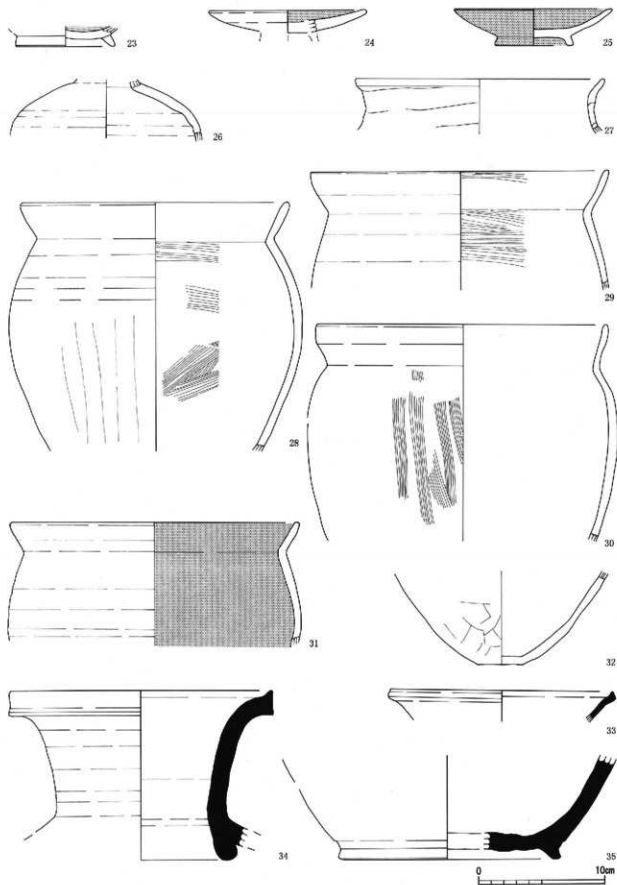
第104图 第29号住居址出土遗物实测图(1)



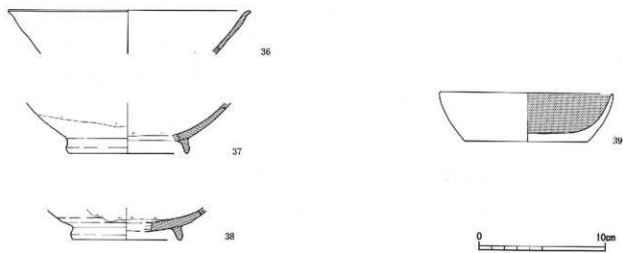
第105图 第29号住居址出土遗物实测图(2)



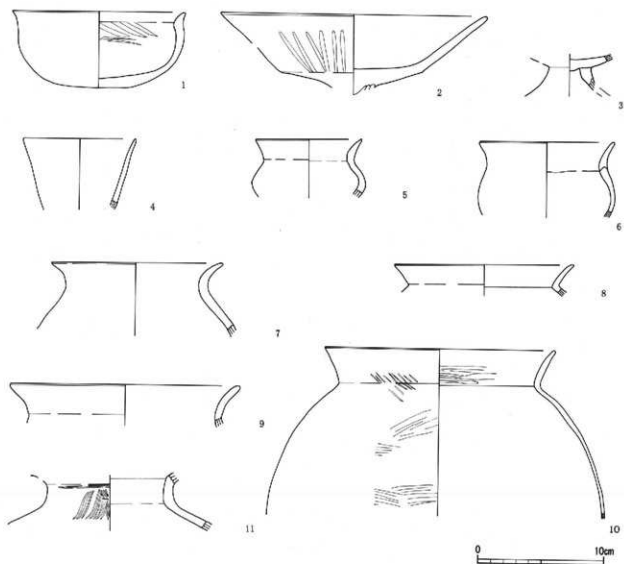
第106图 第30号住居址出土遗物实测图(1)



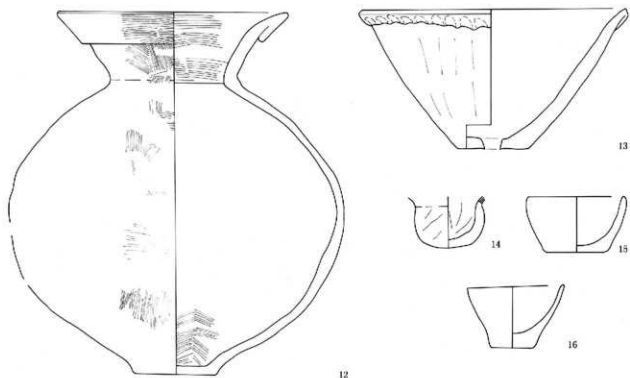
第107图 第30号住居址出土遺物実測图(2)



第108图 第30号住居址出土遗物实测图(3)



第109图 第31号住居址出土遗物实测图(1)



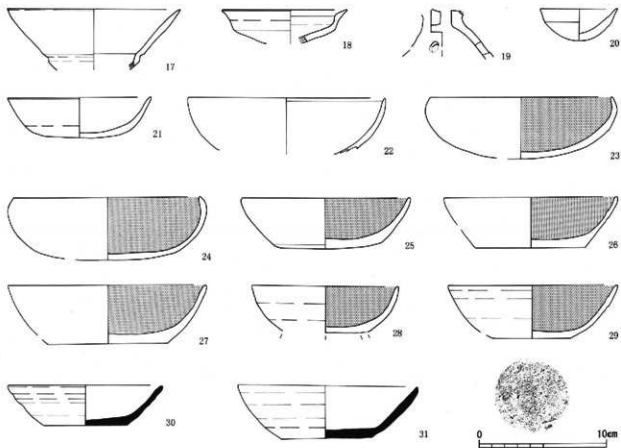
12

13

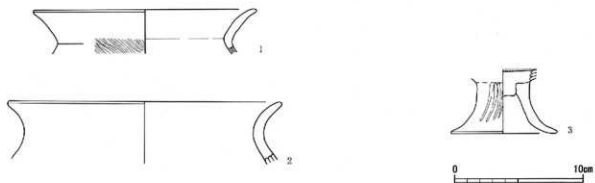
14

15

16



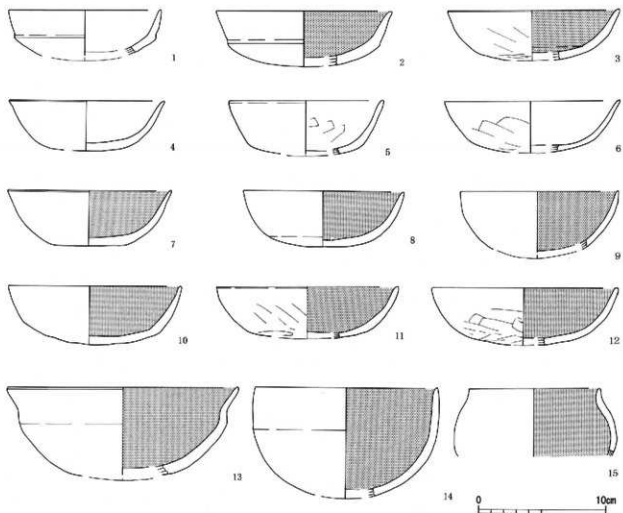
第110图 第31号住居址出土遗物实测图(2)



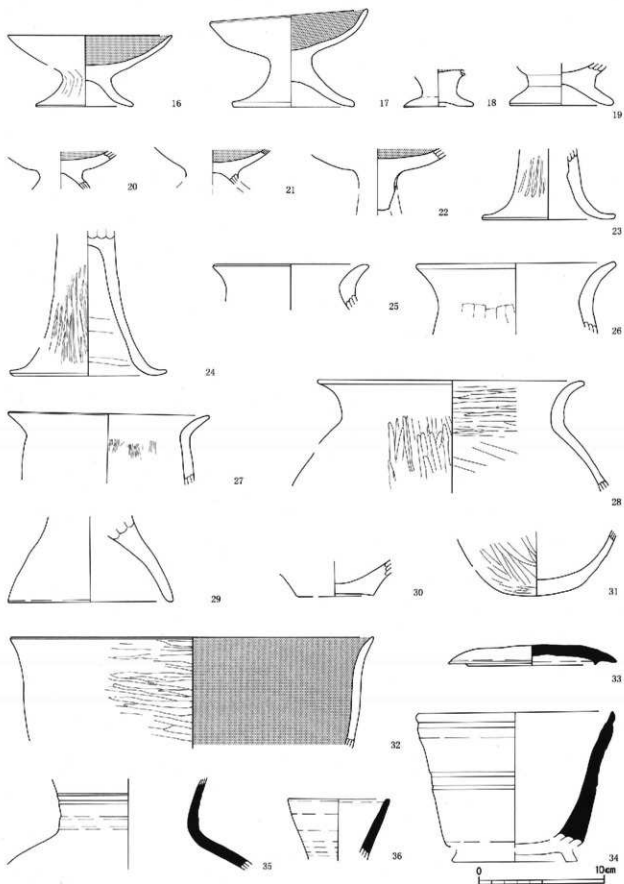
第111图 第34号住居址出土遺物実測図



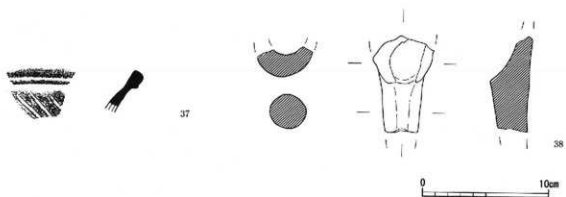
第112图 第35号住居址出土遺物実測図



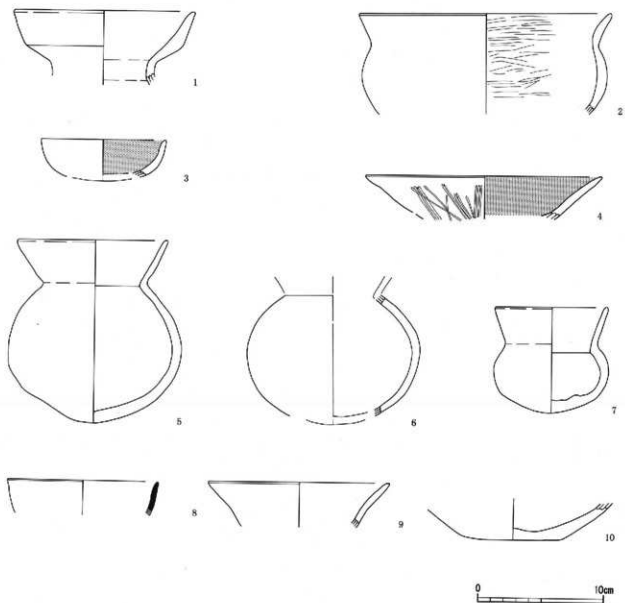
第113图 第1号集石遺構出土遺物実測図(1)



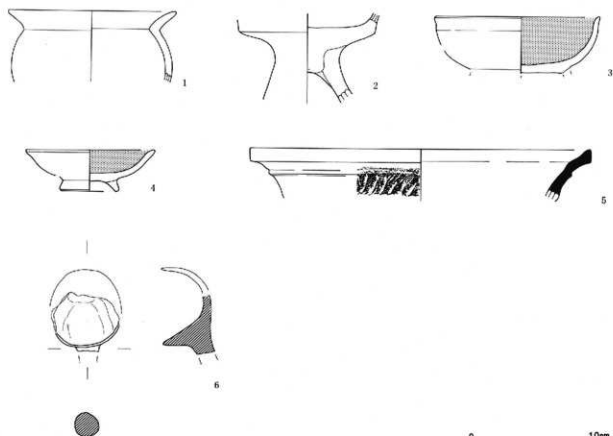
第114图 第1号集石遗址出土文物实例图(2)



第115図 第1号集石遺構出土遺物実測図(3)



第116図 溝状遺構・土坑・ピット出土遺物実測図



第117図 遺構外出土遺物実測図

遺構番号	押図番号	器種	径・全長	厚さ	重量	残存	胎土	焼成	色調
SB-06	77	紡錘車	7.0	1.5	94.2	完存	雲母・微砂粒含	良好	7.5YR6/4鈍い橙色
SX-01	38	匙形土製品	(7.6)	3.4	88.5	1/2	白色砂粒・粗砂粒含	良好	7.5YR7/6橙色
遺構外	6	匙形土製品	(4.7)	3.9	44.4	1/2	細砂粒含	良好	2.5YR5/8明赤褐色

第7表 土製品観察表

遺構番号	押図番号	器種	全長	全幅	厚さ	残存	胎土	焼成	色調
SB-27	16	平瓦	(7.4)	(5.3)	1.5	一部	石英・礫含	還元	外:10YR5/2灰黄褐色 内:10YR5/1褐灰色

第8表 瓦観察表

遺構番号	押図番号	種類	全長	全幅	厚さ	重量	材質	備考
SB-02	6	砥石	9.7	3.4	3.8	180	輝石安山岩	
SB-12	17	磨石	8.5	8.1	5.5	460	輝石安山岩	
SB-18	14	砥石	32.6	13.0	13.0	4,900	流紋岩	
SB-27	17	磨製石斧	11.8	6.0	2.8	355	緑泥片岩	混入異物
SB-27	18	磨石	6.6	5.5	5.2	285	輝石安山岩	

第9表 石器観察表

新編標準器	標準器	口徑	重量	保存	新	土	色澤	質地	用途	備註	分類
SB-01	37 土師・土師	4.5	4.4	磁石	磁石	外: 7.537/6暗褐色 内: 7.537/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-02	38 土師・土師	(2.4)	4.9	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-03	39 土師・土師	3.3	12.0	磁石	磁石	外: 2.537/6暗褐色 内: 2.537/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-04	40 土師・土師	13.3	(1.3)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-05	41 土師・土師	(1.3)	(1.3)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-06	42 土師・土師	23.2	10.4	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-07	43 土師・土師	(6.4)	(6.4)	磁石	磁石	外: 10.976/6暗褐色 内: 10.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-08	44 土師・土師	(7.2)	(7.2)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-09	45 土師・土師	(3.0)	(3.0)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-10	46 土師・土師	7.5	—	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-11	47 土師・土師	(1.3)	(1.3)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-12	48 土師・土師	18.4	(3.3)	磁石	磁石	外: 10.976/6暗褐色 内: 10.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-13	49 土師・土師	18.5	4.1	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-14	50 土師・土師	15.6	5.4	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-15	51 土師・土師	17.8	4.2	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-16	52 土師・土師	18.2	—	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-17	53 土師・土師	12.5	4.3	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-18	54 土師・土師	18.5	5.3	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-19	55 土師・土師	10.4	5.1	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-20	56 土師・土師	11.3	6.7	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-21	57 土師・土師	(12.6)	(3.7)	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-22	58 土師・土師	13.0	5.0	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-23	59 土師・土師	13.2	5.6	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-24	60 土師・土師	13.4	4.6	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-25	61 土師・土師	13.7	5.3	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-26	62 土師・土師	13.7	5.3	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-27	63 土師・土師	13.8	5.3	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-28	64 土師・土師	12.8	5.1	磁石	磁石	外: 10.976/6暗褐色 内: 10.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-29	65 土師・土師	14.4	6.0	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-30	66 土師・土師	(3.1)	9.0	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-31	67 土師・土師	18.5	2.8	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-32	68 土師・土師	(2.3)	(2.3)	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-33	69 土師・土師	(7.3)	1.9	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-34	70 土師・土師	(5.4)	11.2	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-35	71 土師・土師	9.2	5.8	磁石	磁石	外: 10.976/6暗褐色 内: 10.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-36	72 土師・土師	(8.4)	4.2	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-37	73 土師・土師	14.3	12.1	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-38	74 土師・土師	14.6	15.8	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-39	75 土師・土師	(1.3)	3.4	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-40	76 土師・土師	(3.3)	(3.3)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-41	77 土師・土師	18.9	(6.1)	磁石	磁石	外: 10.976/6暗褐色 内: 10.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-42	78 土師・土師	(19.0)	(3.3)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-43	79 土師・土師	22.0	36.9	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-44	80 土師・土師	(10.4)	(10.4)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-45	81 土師・土師	27.0	(21.0)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-46	82 土師・土師	15.5	10.9	磁石	磁石	外: 10.976/6暗褐色 内: 10.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-47	83 土師・土師	(10.6)	(10.6)	磁石	磁石	外: 5.976/6暗褐色 内: 5.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-48	84 土師・土師	14.0	(4.1)	磁石	磁石	外: 2.5376/6暗褐色 内: 2.5376/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内
SB-49	85 土師・土師	(13.0)	(2.1)	磁石	磁石	外: 10.976/6暗褐色 内: 10.976/6暗褐色	暗褐色	硬	同心文印目録	硬へう磨き	内

第11表 土器観察表(2)

漢字	ローマ字	品名	規格	寸法	重量	単位	備考	
S-B-30-21	土師・陶	土師・陶	(2.6)	9.5	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-22	土師・陶	土師・陶	(2.8)	8.8	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-23	土師・陶	土師・陶	(1.8)	7.5	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-24	土師・陶	土師・陶	18.5		底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-25	土師・陶	土師・陶	12.6	4.0	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-26	土師・陶	土師・陶	12.6	4.0	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-27	土師・陶	土師・陶	19.8	4.3	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-28	土師・陶	土師・陶	21.8	(35.7)	2/3	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-29	土師・陶	土師・陶	24.8	5.0	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-30	土師・陶	土師・陶	(17.3)		底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-31	土師・陶	土師・陶	22.8	(4.8)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-32	土師・陶	土師・陶	17.5	3.8	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-33	土師・陶	土師・陶	20.8	(13.4)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-34	土師・陶	土師・陶	18.2	17.4	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-35	土師・陶	土師・陶	(19.2)	(3.5)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-36	土師・陶	土師・陶	(2.5)	9.4	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-37	土師・陶	土師・陶	(2.5)	8.9	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-38	土師・陶	土師・陶	13.8	2.9	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-30-39	土師・陶	土師・陶	13.8	2.9	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-1	土師・陶	土師・陶	21.4	(4.5)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-2	土師・陶	土師・陶	18.9	(8.2)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-3	土師・陶	土師・陶	8.9	(5.8)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-4	土師・陶	土師・陶	8.4	(4.9)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-5	土師・陶	土師・陶	10.6	(5.8)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-6	土師・陶	土師・陶	13.6	(2.4)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-7	土師・陶	土師・陶	14.1	(2.4)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-8	土師・陶	土師・陶	18.2	(3.5)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-9	土師・陶	土師・陶	18.0	(4.2)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-10	土師・陶	土師・陶	25.0	6.5	3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-11	土師・陶	土師・陶	20.7	11.1	5.8	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面
S-B-31-12	土師・陶	土師・陶	7.3	4.1	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-13	土師・陶	土師・陶	7.3	4.7	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-14	土師・陶	土師・陶	1.4	3.4	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-15	土師・陶	土師・陶	8.5	(2.7)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-16	土師・陶	土師・陶	6.0	2.2	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-17	土師・陶	土師・陶	11.4	3.2	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-18	土師・陶	土師・陶	15.4	4.9	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-19	土師・陶	土師・陶	14.3	4.9	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-20	土師・陶	土師・陶	14.9	8.0	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-21	土師・陶	土師・陶	13.5	4.9	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-22	土師・陶	土師・陶	15.6	4.7	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-23	土師・陶	土師・陶	11.4	(3.7)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-24	土師・陶	土師・陶	13.3	4.2	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-25	土師・陶	土師・陶	12.0	3.2	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-26	土師・陶	土師・陶	13.2	4.3	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-27	土師・陶	土師・陶	17.8	3.5	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-28	土師・陶	土師・陶	21.4	(5.3)	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-29	土師・陶	土師・陶	12.0	8.4	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-30	土師・陶	土師・陶	(19.0)	"	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-31	土師・陶	土師・陶	13.8	4.3	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	
S-B-31-32	土師・陶	土師・陶	13.4	4.0	底厚3/4	石丸・磁粉粘着	磁粉粘着・右面赤切り面	

第18表 土器観察表(9)

第2節 道祖神遺跡の調査

八幡裏遺跡群道祖神遺跡は、今回の調査範囲の西半に所在しており、遺構検出面は地表下約 1.6m の深さに埋もれていた。検出された遺構は、溝状遺構 1 条、土坑 4 基、ピット 4 基である。遺構の所産期は、出土遺物から縄文時代中期及び古墳時代前期と推定されるが、遺構検出面と上層の遺物包含層から縄文時代中期～後期、古墳時代前期～後期の土器片が出土しており、該期の遺構が付近に存在する可能性が推測される。

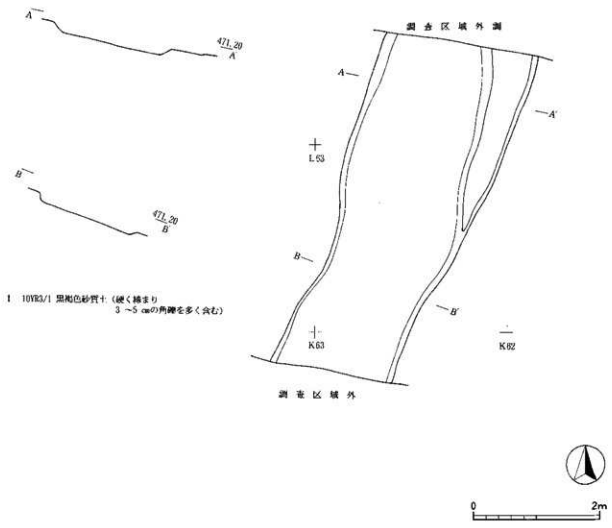
第 1 号溝状遺構は、西側のⅦ区において検出され、縄文時代中期と古墳時代前期の土器片が出土しており、古墳時代前期の所産と推定されるが、覆土の状況から自然流路と考えられる。土坑及びピットは東側のⅥ区において検出され、出土遺物は極めて乏しかったが、縄文時代中期の土器片と石鏃が出土しており、概ね該期の所産と推定される。

遺構番号	平面形	断面形	規 模 (m)			長軸方向	出土遺物	所 産 期	備考
			長径	短径	深さ				
SK-01	略円形	壘 状	2.44	1.96	0.23		縄文土器	縄文時代中期	
SK-02	円 形	鍋底状	0.88	0.82	0.20		縄文土器・石鏃	縄文時代中期	
SK-03	楕円形	壘 状	1.24	0.77	0.11	N-49° W		不 明	
SK-04	円 形	鍋底状	0.88	0.71	0.25		縄文土器	縄文時代中期	

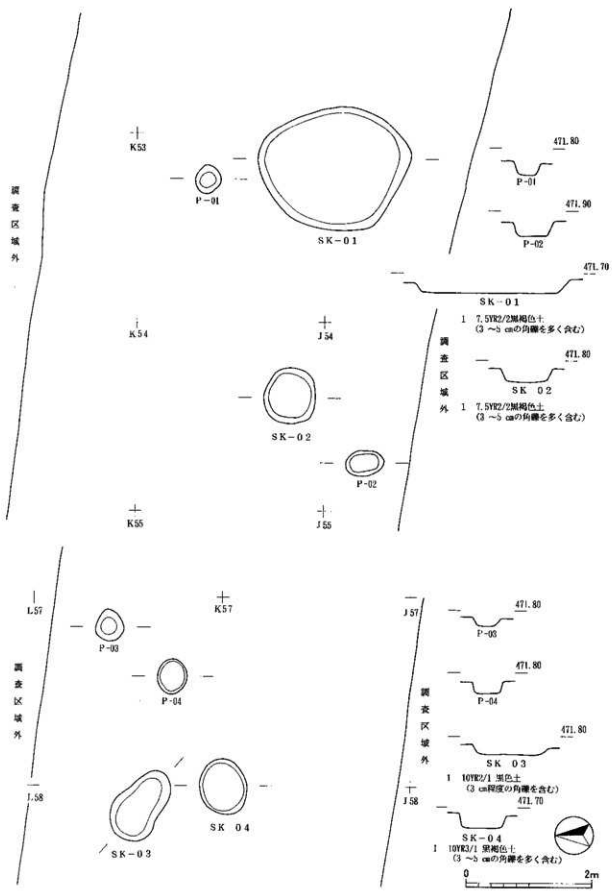
第 20 表 土坑一覧表

遺構番号	平面形	規 模 (m)			種 土	出土遺物	備 考
		長 径	短 径	深 さ			
P-01	円 形	0.48	0.42	0.22	7.5YR2/1 黒色土	無	
P-02	楕円系	0.62	0.40	0.23	7.5YR2/1 黒色土	無	
P-03	略円形	0.50	0.46	0.15	10YR3/2 黒褐色土	無	
P-04	楕円系	0.57	0.46	0.21	7.5YR3/1 黒褐色土	無	

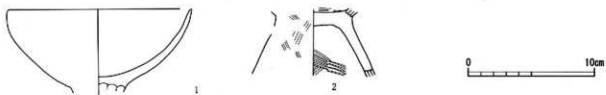
第 21 表 ピット一覧表



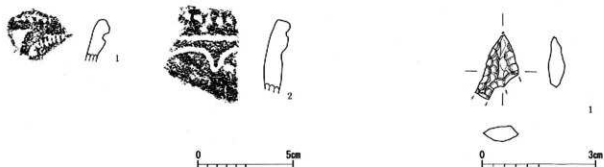
第118図 第1号溝状遺構実測図



第119図 土坑・ピット実測図

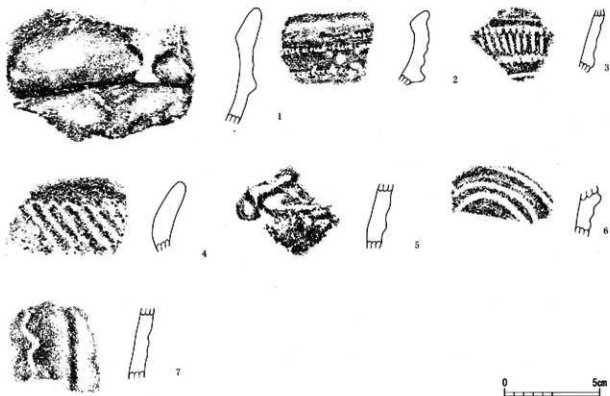


第120图 第1号沟状遗構出土遺物実測図

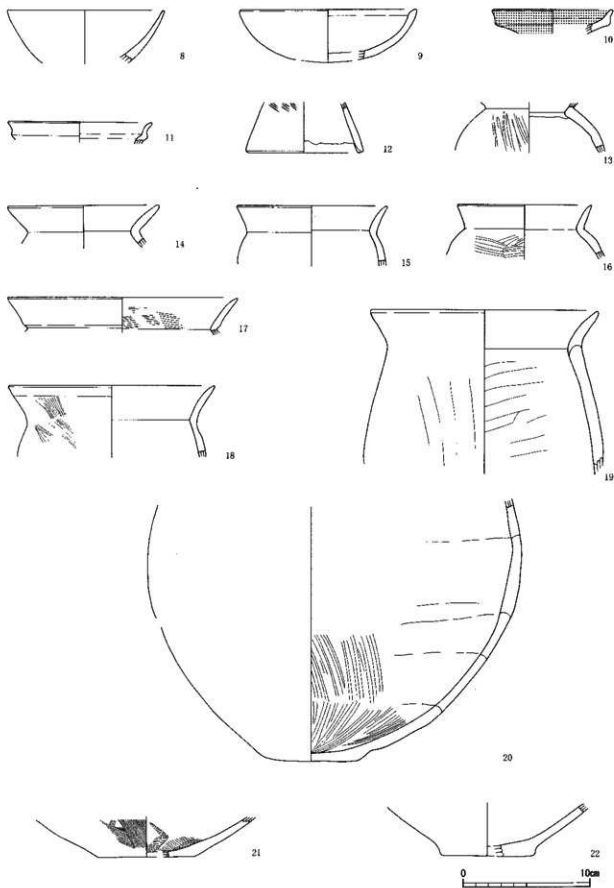


第121图 第1号土坑出土遺物拓影図

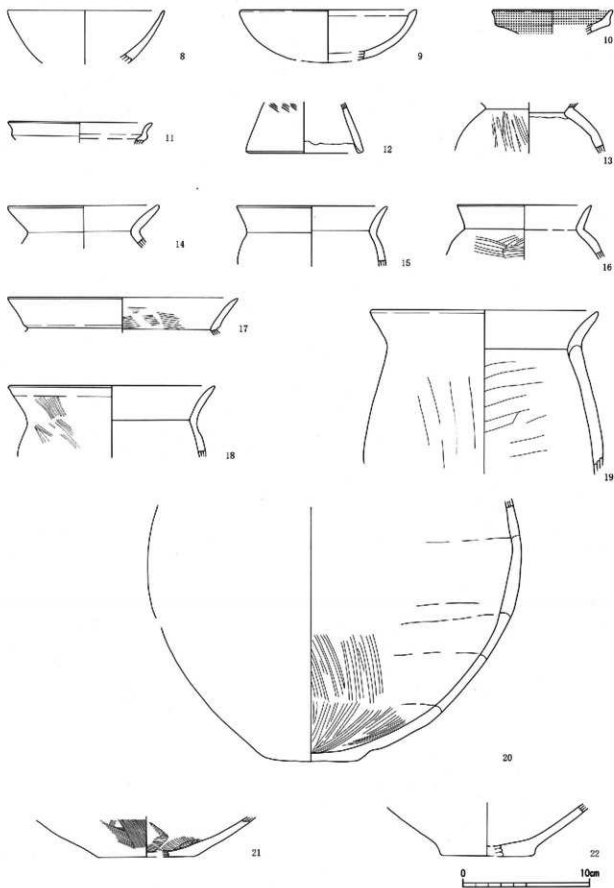
第122图 第2号土坑出土遺物実測図



第123图 遺構外出土遺物拓影図



第124圖 遠構外出土遺物実測図



第124圖 遠構外出土遺物実測図

通称番号	通称	形状	寸法	質量	用途	材料	重量	材質	備考
S.D-01	1 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.D-01	2 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.D-01	3 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.D-01	4 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	1 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	2 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	3 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	4 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	5 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	6 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	7 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	8 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	9 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	10 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	11 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	12 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	13 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	14 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	15 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	16 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	17 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	18 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	19 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	20 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	21 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			
S.K-01	22 土師・土師	口縁部1/8	14.5	(6.5)	石製・磁器製	石製・磁器製			

第22表 土器観察表

通称番号	種類	全長	全幅	厚さ	重量	材質	備考
SK-02	1 石蓋	1.8	1.0	0.5	0.54	黒耀石	

第23表 石器観察表

写 真 图 版



海禅寺裏遺跡Ⅰ区航空写真
(直上より)



海禅寺裏遺跡Ⅱ区航空写真
(直上より)



海禅寺裏遺跡Ⅲ区航空写真
(直上より)



海禅寺裏・道祖神遺跡航空写真
(直上より)



海禅寺裏遺跡Ⅰ区(東より)



海禅寺裏遺跡Ⅰ区(西より)



海禅寺裏遺跡Ⅱ区（東より）



海禅寺裏遺跡Ⅲ区（南より）



海禅寺裏遺跡Ⅲ区（東より）



海禅寺裏遺跡Ⅲ区（西より）



海禅寺裏遺跡Ⅳ区（東より）



海禅寺裏遺跡Ⅴ区（東より）



第1号住居址 (南西より)



第2号住居址 (南より)



第3号住居址 (南より)



第4号住居址 (北より)



第4号住居址竈・遺物出土状況 (西より)



第5号住居址 (南より)



第6号住居址 (南より)



第6号住居址竈 (南より)



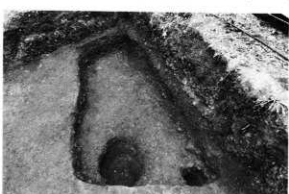
第7号住居址（南より）



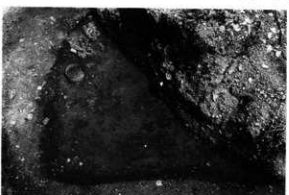
第8号住居址（北東より）



第9号住居址（南より）



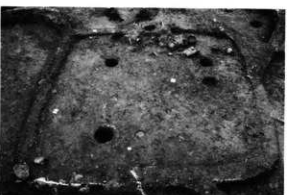
第10号住居址（南より）



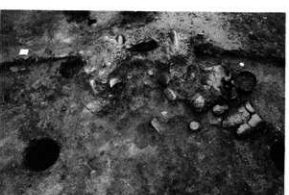
第11号住居址（北西より）



第11号住居址竈・遺物出土状況（西より）



第12号住居址（南西より）



第12号住居址竈・遺物出土状況（西より）



第13号住居址（北西より）



第13号住居址竈（北西より）



第15号住居址（南より）



第16号住居址（南より）



第17号住居址（南より）



第18号住居址（南東より）



第20号住居址（南西より）



第21号住居址（南より）



第22号住居址（南より）



第25号住居址（南より）



第24・26号住居址（南西より）



第27号住居址（南より）



第28号住居址（南より）



第29号住居址（南より）



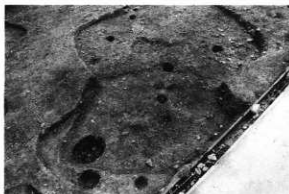
第29号住居址竈（南より）



第30号住居址（南より）



第31号住居址 (南より)



第35号住居址 (南西より)



第1号集石遺構 (東より)



第2号集石遺構 (南より)



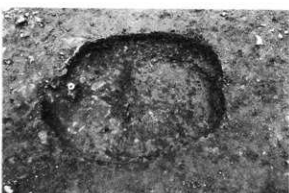
第1号溝状遺構 (北より)



第2号土坑 (南より)



第8号土坑 (北より)



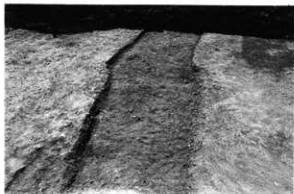
第10号土坑 (南より)



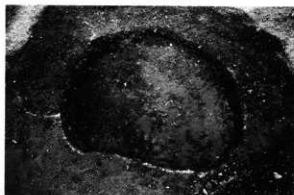
道祖神遺跡全景（東より）



道祖神遺跡全景（西より）



第1号溝状遺構（北より）



第1号土坑（北より）



SB-03 1



SB-03 2



SB-03 9



SB-03 10



SB-03 12



SB-03 13



SB-03 17



SB-03 18



SB-03 19



SB-03 20



SB-03 21



SB-03 25



SB-03 26



SB-03 32~38



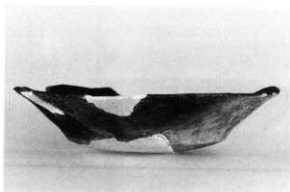
SB-03 41



SB-04 3



SB-04 4



SB-04 5



SB-04 6



SB-04 7



SB-04 8



SB-04 9



SB-04 10



SB-04 11



SB-04 13



SB-04 14



SB-04 15



SB-04 16



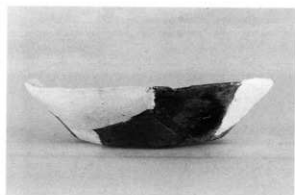
SB-04 17



SB-04 18



SB-04 19



SB-04 20



SB-04 22



SB-04 29



SB-04 30



SB-04 36



SB-04 38



SB-04 39



SB-05 1



SB-06 4



SB-06 5



SB-06 7



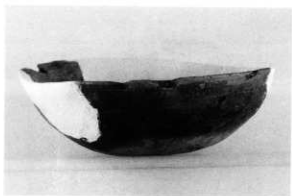
SB-06 9



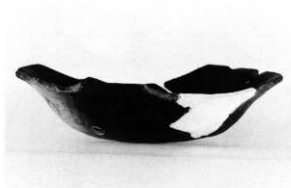
SB-06 10



SB-06 12



SB-06 15



SB-06 17



SB-06 18



SB-06 20



SB-06 22



SB-06 25



SB-06 26



SB-06 27



SB-06 38



SB-06 39



SB-06 40



SB-06 41



SB-06 42



SB-06 45



SB-06 46



SB-06 49



SB-06 50



SB-06 53



SB-06 67



SB-06 68



SB-06 69



SB-06 70



SB-06 71~74 - 77



SB-06 76



SB-06 79



SB-06 80



SB-06 82



SB-10 1~3



SB-10 4



SB-11 3



SB-11 6



SB-11 7



SB-11 8



SB-12 2



SB-12 3



SB-12 4



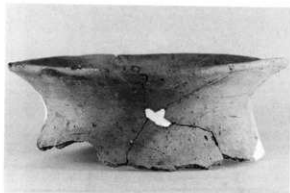
SB-12 5



SB-12 6



SB-12 11



SB-12 13



SB-12 16